

伏見城跡・桃陵遺跡

2015年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

伏見城跡・桃陵遺跡

2015年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、中学校武道場及びプール複合施設整備事業に伴う伏見城跡・桃陵遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

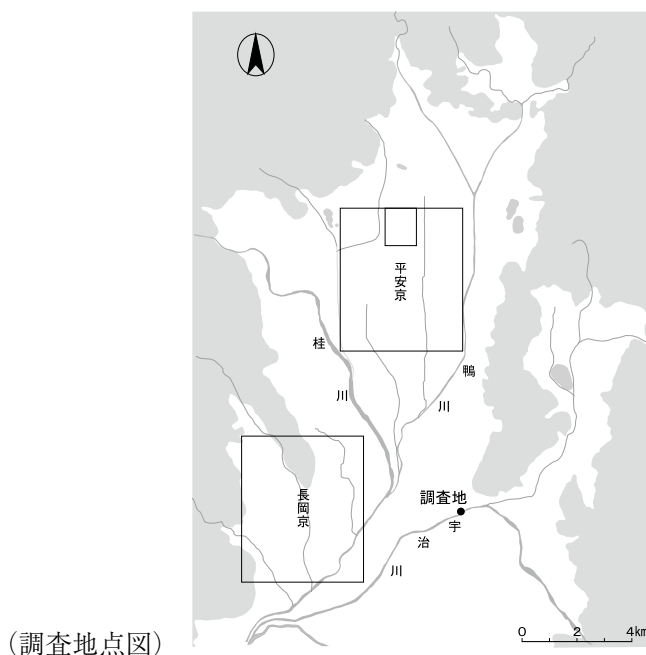
末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

平成27年9月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- 1 遺 跡 名 伏見城跡・桃陵遺跡（文化財保護課番号 13 F 442）
- 2 調査所在地 京都市伏見区桃陵町1番地の1（京都市桃陵中学校校内）
- 3 委 託 者 京都市 代表者 京都市長 門川大作
- 4 調査期間 2015年2月14日～2015年6月12日
- 5 調査面積 537㎡
- 6 調査担当者 近藤章子・松吉祐希・中谷正和
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「丹波橋」・「中書島」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 遺物番号 種類ごとに通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 近藤章子・松吉祐希・中谷正和
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員および資料業務職員があたった。



(調査地点図)

目 次

1. 調査の経緯	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の経過	1
2. 位置と環境	3
(1) 遺跡の位置と環境	3
(2) 周辺の調査	3
3. 遺 構	7
(1) 基本層序	7
(2) 遺構の概要	7
(3) 桃山時代から江戸時代の遺構 第1面	13
(4) 平安時代から室町時代の遺構 第2面	17
(5) 弥生時代から奈良時代の遺構 第3面	19
4. 遺 物	24
(1) 遺物の概要	24
(2) 土器類	24
(3) その他の遺物	32
5. ま と め	35

図 版 目 次

図版1	遺構	1	第1面東半全景（西から）
		2	第1面西半全景（西から）
図版2	遺構	1	建物1・土坑256（北から）
		2	埋甕28検出状況（北東から）
図版3	遺構	1	第2面東半全景（西から）
		2	第2面西半全景（西から）
図版4	遺構	1	溝119（北から）
		2	溝119五輪塔出土状況（西から）
		3	建物2（北から）

- 図版5 遺構 1 第3面東半全景（北から）
 2 第3面西半全景（西から）
- 図版6 遺構 1 竪穴建物177・425（北東から）
 2 土坑427土器出土状況（東から）
 3 溝162弥生土器出土状況（南から）
- 図版7 遺物 縄文時代から奈良時代の遺物
- 図版8 遺物 鎌倉時代から室町時代の遺物
- 図版9 遺物 桃山時代から江戸時代の遺物

挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：2,500）	1
図2	調査区配置図（1：1,000）	2
図3	調査前全景（北西から）	2
図4	重機掘削（南から）	2
図5	作業風景（西から）	2
図6	現地公開風景（南から）	2
図7	調査地および周辺調査位置図（1：5,000）	4
図8	調査区東壁断面図（1：80）	8
図9	調査区西壁断面図（1：80）	9
図10-1	調査区南壁断面図（1：80）	10
図10-2	調査区南壁土層名	11
図11	第1面遺構平面図（1：150）	12
図12	埋甕28実測図（1：40）	13
図13	土坑21・88実測図（1：40）	13
図14	建物1・土坑256実測図（1：50）	14
図15	土坑206・209実測図（1：50）	15
図16	第2面遺構平面図（1：150）	16
図17	土坑367実測図（1：50）	17
図18	溝119中央セクション断面図（1：50）	18
図19	建物2実測図（1：80）	18
図20	溝381実測図（1：50）	19
図21	第3面遺構平面図（1：150）	20

図22	竪穴建物177・425実測図（1：50）	21
図23	土坑427実測図（1：20）	22
図24	溝断面図（1：30）	23
図25	縄文土器・弥生土器実測図（1：4）	25
図26	古墳時代から奈良時代土器実測図（1：4）	26
図27	平安時代土器実測図（1：4）	28
図28	鎌倉時代から室町時代土器実測図1（1：4）	28
図29	鎌倉時代から室町時代土器実測図2（1：4）	30
図30	桃山時代から江戸時代土器実測図（1：4、108のみ1：8）	31
図31	石製品実測図（1：4、石3のみ1：2）	32
図32	土製品実測図（1：2）	33
図33	瓦類拓影及び実測図（1：4）	34

表 目 次

表1	周辺調査一覧表	5
表2	遺構概要表	7
表3	遺物概要表	24

付 表 目 次

付表1	土器類観察表	37
付表2	その他の遺物観察表	41

伏見城跡・桃陵遺跡

1. 調査の経緯

(1) 調査に至る経緯

今回の調査地は京都市伏見区桃陵町1番地の1、京都市桃陵中学校校内に所在し、桃陵中学校武道場及びプール複合施設整備事業に伴う発掘調査である。

調査地は桃山時代から江戸時代の伏見城跡の城下町南部、また桃陵遺跡の東に近接し、周辺の調査成果から弥生時代から中世の遺構及び近世の武家屋敷跡などの遺構の存在が想定された。

調査は、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という）の指導の下、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が行った。

(2) 調査の経過

調査区は排土置き場の確保のために、東側調査区（265㎡）と西側調査区（272㎡）に分けて設定し、東側調査区から実施し、反転調査を行った。調査総面積は537㎡である。2015年2月14日



図1 調査位置図 (1:2,500)

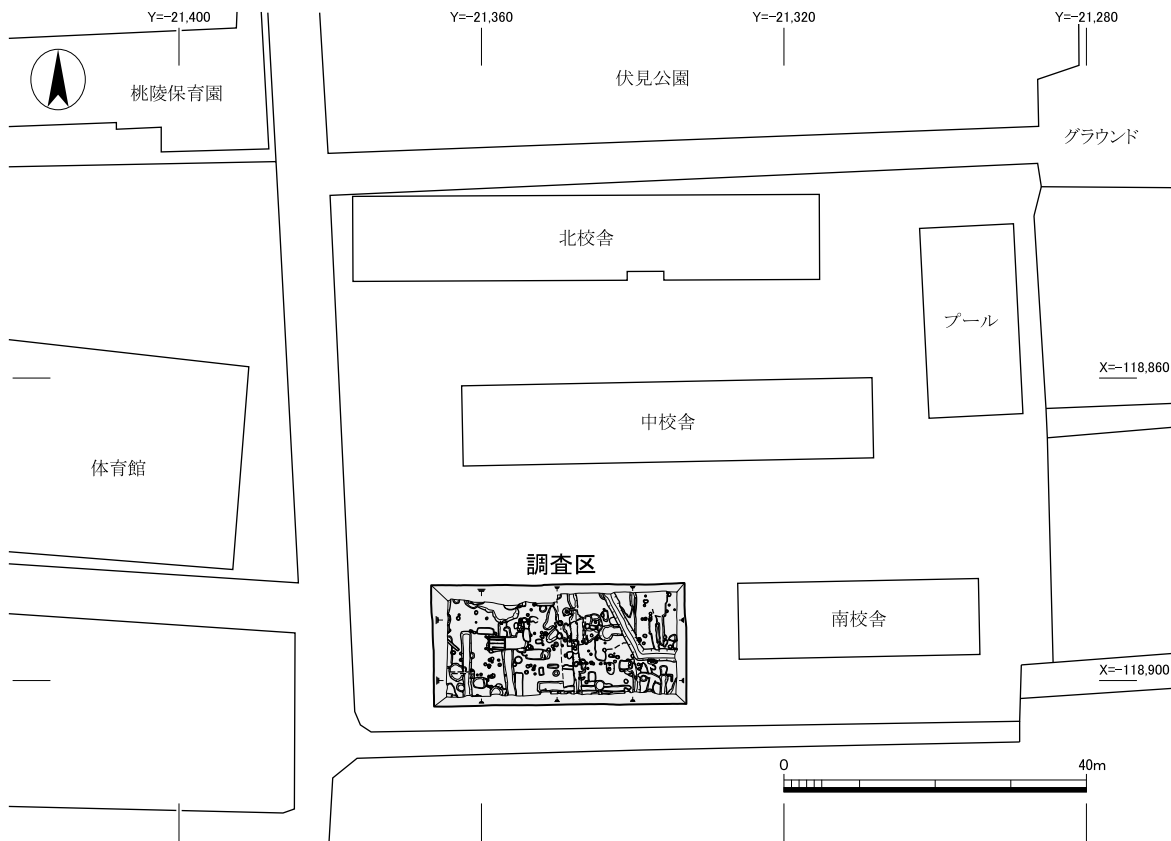


図2 調査区配置図 (1 : 1,000)



図3 調査前全景 (北西から)



図4 重機掘削 (南から)



図5 作業風景 (西から)



図6 現地公開風景 (南から)

より現場詰所設置などの付帯工事を行い、2月16日から東側調査区の調査を開始し、4月18日に終了した。引き続き西側調査区の調査を行い、6月12日に終了した。

各遺構面では、検出した遺構や土層断面の図面作成、全景写真や遺構の個別写真撮影などの記録作業を行った。

調査中は適宜、文化財保護課の臨検を受けた。また、当研究所の検証委員の國下多美樹氏（龍谷大学文学部教授）、鈴木久男氏（京都産業大学文化学部教授）の視察を受けた。

調査期間中の5月30日には、地元住民を対象とした現地公開を開催し、調査成果の公開につとめた。約260名の参加者があった。

2. 位置と環境

(1) 遺跡の位置と環境

調査地の北には御香宮神社とその南側を東西方向に通る大手筋、西には近畿日本鉄道京都線高架とその西側に京町通、南には京阪電車宇治線とさらに南側には宇治川と旧巨椋池、東には国道24号線と指月城推定地などがある。地形的には桃山丘陵が南西方向へ緩やかに下がる西斜面の南端に位置する。

調査地周辺は、江戸時代に描かれた伏見城下の絵図によると、富田信濃守の屋敷地の南部にあたり、周囲には石川玄蕃、山口駿河守、大友豊後守などの大名の屋敷地がみられる。その後、伏見城の廃城とともに、富田信濃守の屋敷跡は伏見奉行所となり、その周囲には同心屋敷や与力屋敷などが建つ¹⁾。調査地は奉行所南側の同心屋敷地に位置するが、これらは慶応四年（1868）の鳥羽・伏見の戦いで焼失する。鳥羽・伏見の戦い直後には、御親兵の兵営地、その後は旧陸軍の兵舎として利用される。明治43年（1910）から太平洋戦争終戦まで、第十六師団工兵第十六大隊の兵舎および練兵場となる。終戦後は米駐留軍駐屯地を経て、昭和24年に桃陵中学校が設立された。

(2) 周辺の調査（図7、表1）

伏見城跡は、城下町を含めた遺跡であるため、東西約3.2km、南北約2kmと広範囲にわたる。伏見城跡と重複する遺跡は、本調査地の北側に位置する縄文時代の遺物散布地である金森出雲遺跡、奈良時代から平安時代後期の御香宮廃寺、調査地に隣接する弥生時代から鎌倉時代の集落である桃陵遺跡などがある。以下に周辺の主な調査成果を、時代別に記述する。調査地点・詳細については図7と表1に表記した。

縄文時代 調査6で縄文時代後期の深鉢（滋賀里Ⅲ～Ⅳ式）が、後世の遺構に混入して出土している。

弥生時代 調査6で弥生時代前期末から中期前半の方形周溝墓を2基、自然流路、掘立柱建物3棟、土坑、溝などを検出している。また、調査8では弥生時代中期の方形周溝墓7基を検出してお

表1 周辺調査一覧表

No.	所在地	調査期間	面積	調査内容	文献
1	伏見区桃山町 金森出雲	1986年1月6日 ～2月18日	1507m ²	奈良～平安の溝、井戸、掘込、ピットなど。鎌倉～室町の溝、 柵列、掘込、ピットなど。桃山～江戸の門跡、井戸、掘込、 溝など。門は大名屋敷の施設。	1
2	伏見区桃山町 松平筑前	1989年5月8日 ～12月28日	3192m ²	奈良の土坑、土器溜。中世の東西・南北堀、柱列。桃山(2時 期)の整地層、掘立柱建物、礎石建物、柵列、溝、井戸など。 飛鳥・奈良の瓦、金箔瓦出土。	2
3	伏見区桃山町 松平筑前	1998年1月28日 ～2月27日	310m ²	奈良前期の掘立柱建物、井戸、溝、御香宮廃寺関連。室町の 堀。桃山の溝、柵列。	3
4	伏見区西奉行町	1989年4月3日 ～11月30日	2310m ²	平安の柱穴、土坑、溝、池跡。桃山の土坑、門跡、池跡。江 戸の土坑、石垣など。金箔瓦出土。	4
5	伏見区片桐町	1991年4月16日 ～8月9日	780m ²	桃山～江戸初期の柱穴、溝、池。江戸の柱穴、土坑、溝など。	5
6	伏見区西奉行町、 東奉行町	2008年5月14日 ～2009年6月2日	3253m ²	縄文後期の深鉢片出土。弥生中期のピット、土坑、溝など。 奈良の掘立柱建物、区画溝。平安の掘立柱建物、ピット、土 坑、溝。鎌倉の掘立柱建物、ピット、土坑、溝。桃山～江戸 初期の礎石建物、堀、土坑、溝、石垣、井戸など。江戸の伏 見奉行所の建物、石垣、火災跡など。近代の工兵第16大隊に 関連する遺構、建物多数。	6
7	伏見区奉行前町	2013年11月5日 ～12月20日	288m ²	古墳周濠より円筒・朝顔・人物埴輪出土。中世の柱穴、土坑。 近世の建物、柱穴、土坑、溝、井戸など。大名屋敷、伏見奉 行所与力屋敷関連。近代の工兵第16大隊に関連する遺構。	7
8	伏見区桃陵町 (桃陵中学校体育館)	1988年9月7日 ～1989年1月10日	992m ²	弥生中期の方形周溝墓。奈良の柱穴群。平安～鎌倉、室町の 遺構多数。桃山～江戸の遺構を多数。土取り土坑から多数の 金箔瓦出土。	8
9	伏見区桃陵町 (桃陵中学校校内)	1975年12月11日 ～12月31日	300m ²	桃山の溝、井戸。江戸の池状遺構、井戸など。	9

文献

- 1 平安京調査会「伏見城跡2」『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1988年
- 2 内田好昭ほか「伏見城跡」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 3 前田義明「伏見城跡・御香宮廃寺」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1999年
- 4 三木義則・高島 薫・星野猷二『伏見奉行所発掘調査報告―桃陵団地立替え工事に伴う埋蔵文化財調査―』伏見城研究会 1990年
- 5 星野猷二・三木義則・家崎孝治『伏見奉行所発掘調査報告Ⅱ―桃陵団地立替え工事に伴う埋蔵文化財調査―』伏見城研究会 1997年
- 6 村尾政人ほか『伏見城跡・桃陵遺跡 公務員宿舍伏見住宅(仮称)整備事業 発掘調査報告書』西近畿文化財調査研究所 2010年
- 7 河野凡洋・ト田健司『伏見城跡・桃陵遺跡』有限会社 京都平安文化財 2014年
- 8 小森俊寛・原山充志「伏見城跡3」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 9 瀬川芳則ほか『伏見城武家屋敷跡 発掘調査報告』大阪経済法科大学 1976年

り、中期前半の壺が出土している。

古墳時代 調査7で古墳の周濠の一部を検出しており、周濠内から円筒・朝顔形・人物埴輪が出土している。その他、近世整地土層からも埴輪片が出土している。調査8では遺構には伴わないが、5世紀後半の円筒・朝顔形埴輪が出土している。

飛鳥時代から奈良時代 調査6では、飛鳥時代の土師器高杯が土坑から出土した。調査1～3・8では、奈良時代の掘立柱建物、溝、土坑などを検出している。特に調査3で検出した奈良時代前期の建物、溝、井戸があり、御香宮廃寺に関連する遺構とみられる。調査6では奈良時代の掘立柱

建物と区画溝を検出しており、江戸時代後期の石垣内に小型の塔心礎が混入していたことから、奈良時代の塔が近辺に存在したと推測されている。

平安時代 調査1では奈良時代から平安時代の溝、井戸など、御香宮廃寺関連の遺構を検出した。調査4では後期から末期の溝、土坑、洲浜を伴う池を検出している。

鎌倉時代から室町時代 調査1・2・6～8からは溝、土坑、柱穴などを検出している。調査2では東西・南北方向の堀や柱列を検出している。調査6では平安時代末期から鎌倉時代の掘立柱建物4棟、それに伴う区画溝や雨落溝などを検出し、9世紀から14世紀の遺物が多数出土している。伏見山荘などの貴族の別荘関連の遺構の可能性はある。

桃山時代から江戸時代 伏見城城下町に関わる遺構・遺物を各地点で検出している。調査1では大名屋敷の門跡、調査2・3では柵列や溝など、調査4では石垣、調査6では礎石建物跡や堀、石垣などを検出している。調査8では螺旋状に掘削された大規模な土取り土坑から多数の金箔瓦が出土している。調査6では伏見奉行所関連の遺構を多数検出している。金箔瓦は各調査地点で出土している。

近代 調査6では第十六師団工兵第十六大隊関連の兵舎跡や土坑を検出し、機関銃・銃剣などの武器類が出土している。調査7では塹壕掘りの教練用と思われる堀状遺構を検出している。

3. 遺 構

(1) 基本層序

調査地の地表面はほぼ平坦（標高15.4～15.5m）であるが、層序は調査区北東部と南西部では大きく異なる。

北東部では地表下1.05mまで盛土及び近・現代層、その下は江戸時代の整地層、地表下1.3mで桃山時代の整地層（この上面を第1面）、地表下1.6mで鎌倉時代の整地層及び地山（この上面を第2面・第3面）となる。地山の標高は13.9mである。

南西部では地表下1.6mまで盛土及び近・現代層、その下は江戸時代の整地層、地表下1.9mで桃山時代の整地層（この上面を第1面）、地表下2.2mで鎌倉時代から室町時代の整地層（この上面を第2面）、地表下3.0mで地山（第3面）となる。地山の標高は12.4mである。この北東部と南西部の層序の違いは、当地の原地形が北東から南西へ下がる傾斜地であることに起因する。

(2) 遺構の概要

今回の調査で検出した遺構の総数は428基である。

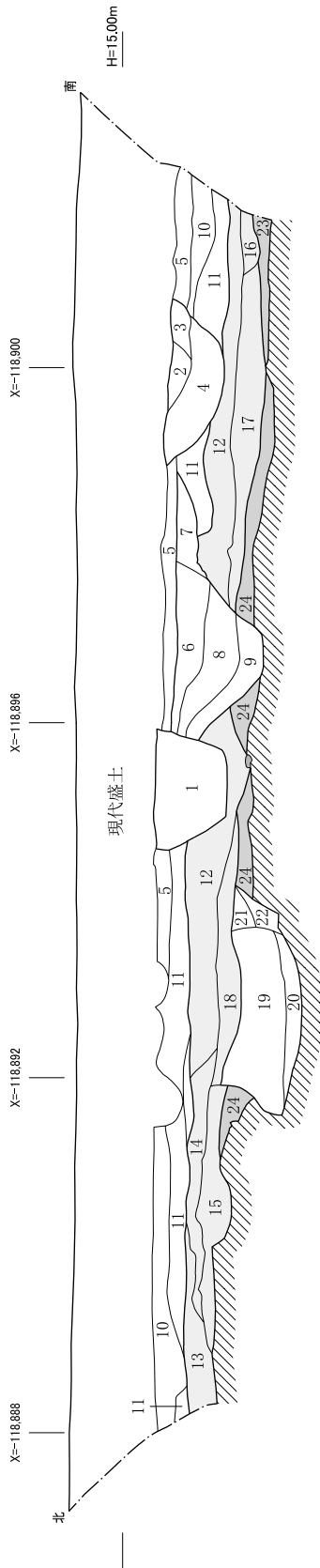
第1面で検出した主な遺構は、桃山時代から江戸時代の掘立柱建物（建物1）、埋甕、井戸、土坑、小穴、溝、整地層などである。建物1は半地下式の貯蔵施設である土坑256を伴う建物、埋甕28はトイレ遺構と思われる。桃山時代の整地層は厚さ0.4～0.9mで、伏見城城下町の整備に伴う整地と考えられる。

第2面で検出した主な遺構は、平安時代の土坑、鎌倉時代から室町時代の南北方向の溝119、流路145、堤135、土坑、掘立柱建物（建物2）、溝、小穴、小溝群、整地層などである。溝119はその西岸に高さ約0.4mの堤を伴う。建物2は南北2間以上、東西は不明である。

第3面で検出した主な遺構は、弥生時代の溝151・162・180・379・394・422・426、飛鳥時代の溝381、土坑427、竪穴建物177・425、奈良時代の土坑370などである。弥生時代の溝は方形周溝

表2 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
弥生時代	溝	弥生時代中期(Ⅱ様式)の壺が出土
飛鳥時代 ～奈良時代	竪穴建物、土坑、溝、小穴	
平安時代	土坑	
鎌倉時代 ～室町時代	流路、堤、掘立柱建物、土坑、柱穴、小穴、溝、整地層	
桃山時代 ～江戸時代	掘立柱建物、土坑、柱穴、小穴、溝、井戸、整地層	



- | | |
|---|--|
| <p>1 10YR4/3にぶい黄褐色細砂 粗砂混+3/2黒褐色粘質土 φ1~5cmの礫少量 炭混 (土坑99)</p> <p>2 10YR3/1黒褐色細砂 粗砂混 φ0.5~3cmの礫少量 炭・焼土混</p> <p>3 10YR2/2黒褐色細砂 粗砂混 φ0.5~10cmの礫少量 炭混</p> <p>4 10YR3/2黒褐色細砂 粗砂混 φ1~5cmの礫少量 炭・焼土混</p> <p>5 10YR3/3暗褐色細砂 粗砂混 φ0.5~1cmの礫中量 炭少量混</p> <p>6 10YR3/2黒褐色細砂 粗砂混+2/1黒色シルト φ1~10cmの礫中量 炭・焼土混</p> <p>7 2.5Y3/3暗オリーブ褐色細砂 粗砂混+10YR4/1褐色シルト φ3~10cmの礫少量 炭混 (溝1)</p> <p>8 10YR2/2黒褐色粘質土 粗砂混+10YR3/1褐色シルト φ1~5cmの礫少量 炭・焼土混</p> <p>9 10YR3/3暗褐色粘質土 粗砂混+黄褐色シルト 細砂混 φ3~5cmの礫少量 炭混</p> <p>10 10YR4/4/3にぶい黄褐色細砂 φ0.5~1cmの礫やや少量 炭混</p> <p>11 10YR4/3にぶい黄褐色+4/2灰黄褐色細砂 粗砂混 φ1~2cmの礫少量 炭混</p> <p>12 10YR4/3にぶい黄褐色+4/4褐色細砂 φ1~3cmの礫中量 炭混</p> | <p>13 10YR2/2黒褐色粘質土 粗砂混 φ1~5cmの礫少量 炭・焼土混</p> <p>14 10YR4/2灰黄褐色細砂 粗砂混 φ3~10cmの礫少量 炭・焼土混</p> <p>15 2.5Y4/4オリーブ褐色細砂+10YR5/6黄褐色粘質土 粗砂混 φ1~3cmの礫少量</p> <p>16 10YR3/2黒褐色細砂+2/2黒褐色粘質土 φ1~3cmの礫中量</p> <p>17 2.5Y4/4オリーブ褐色+10YR4/4褐色細砂 粗砂混 φ1~5cmの礫少量</p> <p>18 10YR2/3黒褐色粘質土 φ3~10cmの礫中量 炭・焼土混</p> <p>19 10YR3/3暗褐色粘質土 φ0.5~3cmの礫少量 炭・焼土少量混</p> <p>20 10YR4/1褐色シルト 粗砂混 φ0.5~3cmの礫少量</p> <p>21 10YR3/4暗褐色粘質土 粗砂混 φ3~5cmの礫少量</p> <p>22 10YR4/3にぶい黄褐色細砂 粗砂混 φ5~10cmの礫少量</p> <p>23 7.5YR4/6褐色細砂+10YR3/2黒褐色粘質土 φ1~3cmの礫少量</p> <p>24 10YR6/4にぶい黄褐色シルト粘土+3/2黒褐色粘土 φ5~10cmの礫少量</p> |
|---|--|



図8 調査区東壁断面図 (1 : 80)

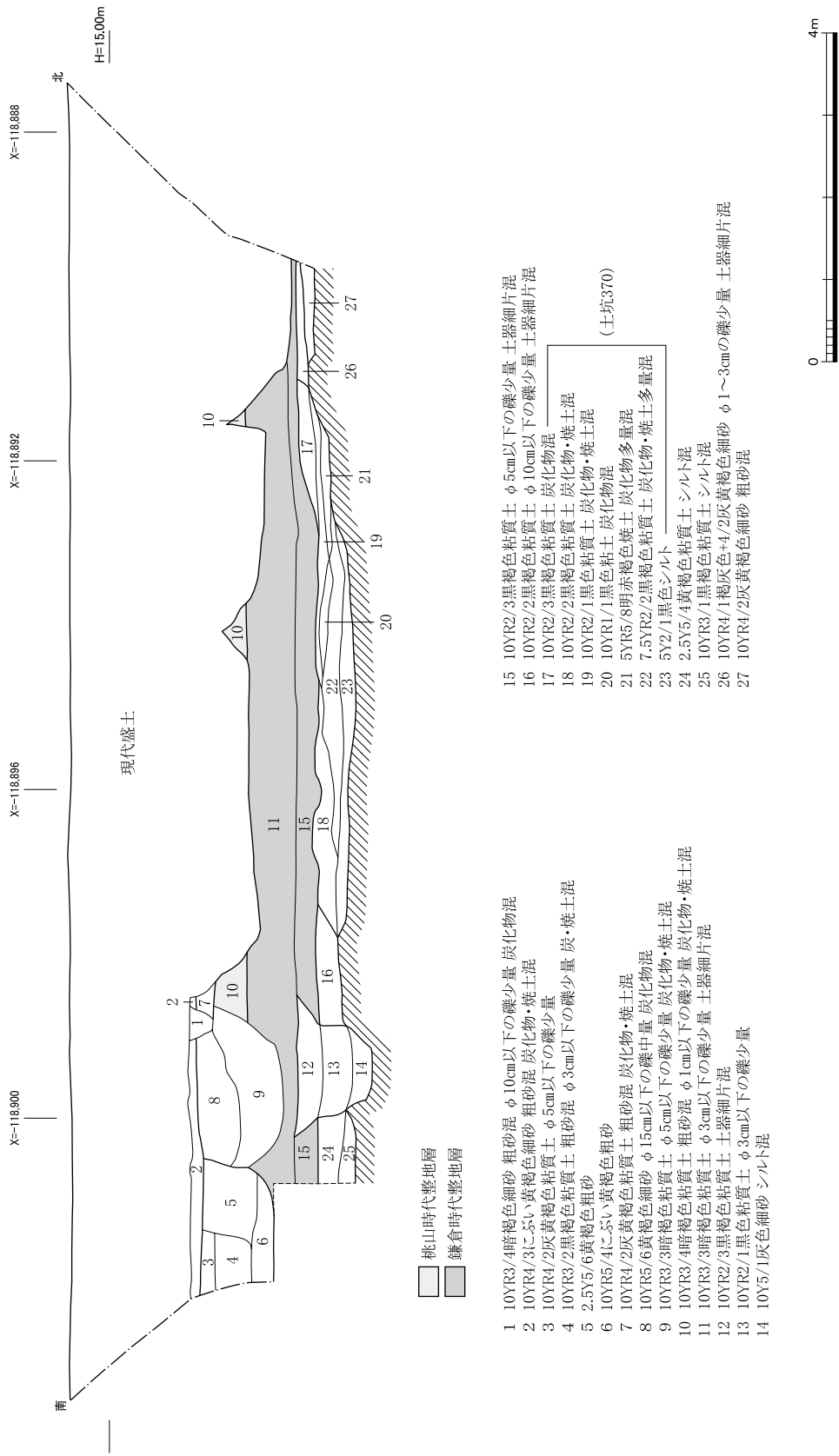


図9 調査区西壁断面図 (1 : 80)

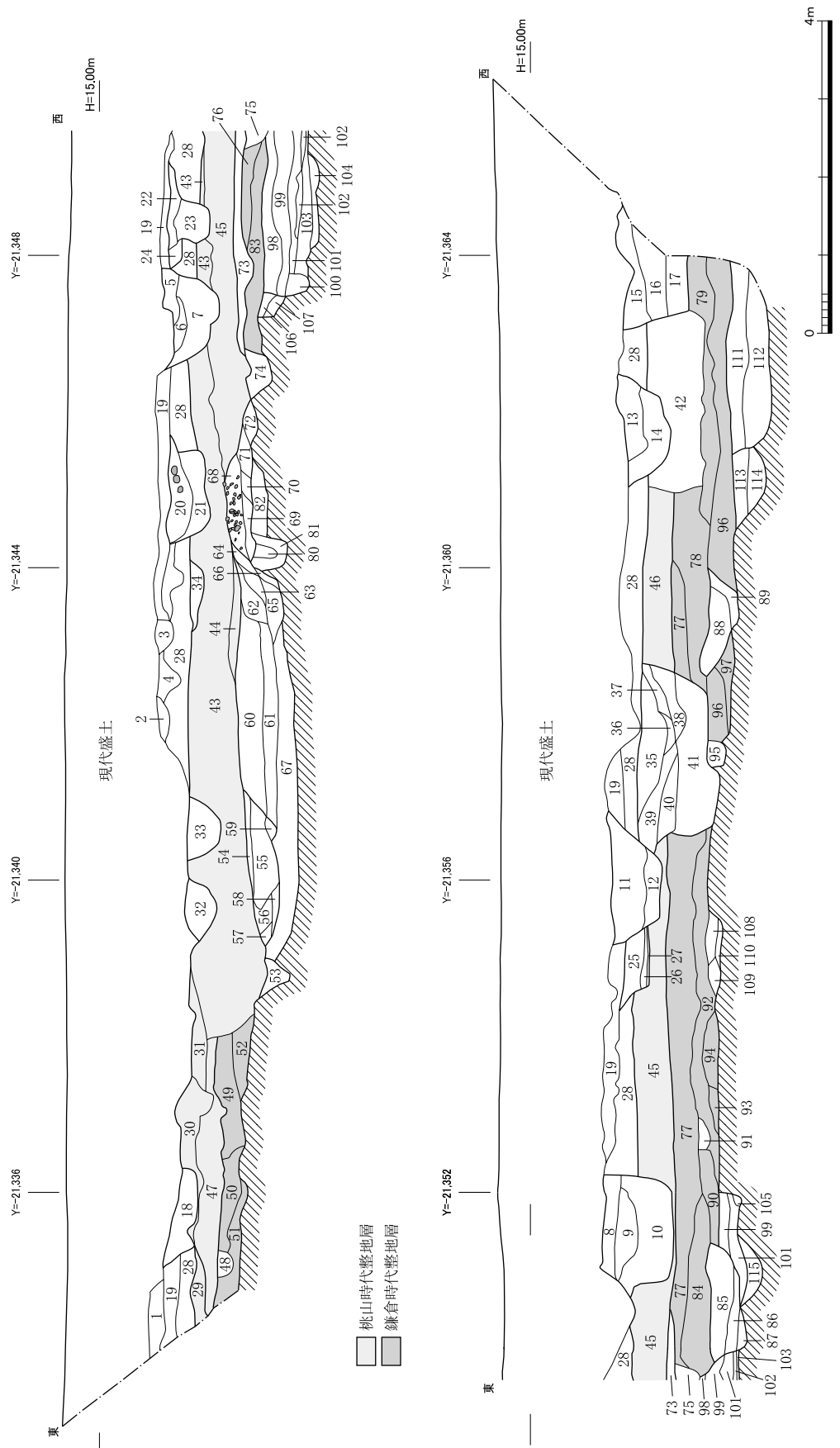


図10-1 調査区南壁断面図 (1:80)

1	10YR3/3暗褐色細砂 粗砂混 φ0.5~1cmの礫中量 炭少量混	42	10YR6/4にぶい、黄褐色細砂 粗砂混 φ2cm以下の礫少量	81	10YR3/2黒褐色粘質土 粗砂混 φ1~3cmの礫少量 炭混
2	10YR5/4にぶい黄褐色細砂 粗砂混 φ0.5~1cmの礫少量	43	10YR4/4褐色細砂 粗砂混 φ0.5~5cmの礫中量	82	10YR2/1黒色粘質土 φ0.5~3cmの礫少量 炭・焼土混
3	10YR4/4褐色粘質土 粗砂混 焼土混	44	10YR3/2黒褐色粘質土 シルト混 φ1~5cmの礫少量 炭・焼土混	83	10YR2/2黒褐色粘質土 φ1~5cmの礫少量 焼土混
4	10YR4/4褐色+4/6褐色細砂 粗砂混 φ0.5~1cmの礫少量 炭・焼土混	45	10YR5/4にぶい、黄褐色細砂 φ3cm以下の礫少量 炭・焼土混	84	10YR3/2黒褐色粘質土 粗砂混 φ3cm以下の礫少量 土器細片混
5	10YR4/4褐色粘質土+6/8明黄褐色細砂 粗砂混 φ1~5cmの礫少量	46	10YR5/2灰黄褐色細砂 φ5cm以下の礫少量 炭化物・焼土混	85	7.5YR2/3極暗褐色粘質土 粗砂混 φ3cm以下の礫少量
6	10YR2/2黒褐色細砂 粗砂混 炭・焼土混	47	10YR3/2黒褐色細砂+2/2黒褐色粘質土 φ1~3cmの礫中量	86	10YR2/2黒褐色粘質土 (土坑410)
7	10YR5/3にぶい黄褐色粘質土 粗砂混 φ5~20cmの礫少量 炭・焼土・瓦片混	48	10YR2/2黒褐色粘質土 粗砂混 φ0.5~1cmの礫少量 炭・焼土混	87	10YR3/2暗褐色細砂 シルト混 (溝366)
8	10YR5/3にぶい黄褐色細砂 粗砂混 φ15cm以下の礫少量 焼土混	49	10YR4/2灰黄褐色粘質土 粗砂混 φ3~5cmの礫少量 炭・焼土混	88	10YR3/2暗褐色細砂 粗砂混 φ15cm以下の礫少量
9	10YR6/3にぶい黄褐色粘質土 φ1cm以下の礫少量 焼土混 (土坑220)	50	10YR4/3にぶい、黄褐色粘質土 粗砂混 φ1~5cmの礫中量	89	10YR2/3黒褐色粘質土 粗砂混
10	10YR3/4暗褐色粘質土 粗砂混 φ3cm以下の礫少量 炭・焼土混 (土坑205)	51	7.5YR4/6褐色細砂+10YR3/2黒褐色粘質土 φ1~3cmの礫少量	90	10YR2/3黒褐色粘質土 粗砂混
11	10YR3/4暗褐色粘質土 粗砂混 φ3cm以下の礫少量 炭・焼土混	52	10YR3/2黒褐色粘質土+5/8黄褐色細砂 粗砂混 φ1~3cmの礫中量	91	10YR3/3暗褐色細砂 φ1cm以下の礫少量 土器細片混
12	10YR3/3暗褐色粘質土 φ5cm以下の礫少量 炭混	53	10YR3/2黒褐色粘質土 シルト・粗砂混 φ0.5~1cmの礫少量 炭・焼土混	92	10YR2/3暗褐色細砂 粗砂混 土器細片混
13	10YR4/3にぶい黄褐色粘質土 φ5cm以下の礫少量	54	10YR6/6明黄褐色粗砂 φ0.5~1cmの礫少量	93	10YR3/3暗褐色粘質土 粗砂混 φ10cm以下の礫少量
14	10YR3/3暗褐色粘質土 シルト混 φ1cm以下の礫少量 炭混	55	10YR5/4にぶい、黄褐色粗砂 φ1~3cmの礫少量	94	10YR3/2黒褐色細砂
15	10YR4/2灰黄褐色粘質土 φ5cm以下の礫少量	56	10YR4/2灰黄褐色粘質土 シルト混 φ3~5cmの礫少量 (流路145)	95	10YR3/3暗褐色細砂 粗砂混 φ5cm以下の礫少量
16	10YR3/2黒褐色粘質土 粗砂混 φ3cm以下の礫少量 炭・焼土混	57	10YR5/2灰黄褐色シルト	96	10YR3/2黒褐色粘質土 φ1~3cmの礫中量
17	10YR5/4にぶい黄褐色粗砂	58	10YR4/2灰黄褐色シルト 粗砂混 φ1~10cmの礫少量	97	10YR4/3にぶい黄褐色細砂 粗砂混
18	10YR4/3にぶい、黄褐色粘質土 粗砂混 φ1~3cmの礫少量 炭・焼土混	59	10YR5/2灰黄褐色粘土	98	10YR2/3黒褐色粘質土 粗砂混
19	10YR3/3暗褐色粘質土+7/8黄褐色細砂 粗砂混 φ20cm以下の礫少量 炭・焼土混	60	10YR4/6褐色粗砂 φ5~10cmの礫少量	99	10YR2/2黒褐色粘質土 粗砂混
20	10YR4/4褐色粘質土 φ0.5~1cmの礫少量 炭・焼土・瓦片混	61	10YR5/4にぶい、黄褐色細砂 粗砂混 φ1~10cmの礫少量	100	10YR3/3暗褐色細砂 シルト混
21	7.5YR4/3褐色粘質土 φ0.5~1cmの礫少量 炭・焼土・瓦片混	62	10YR4/6褐色細砂 シルト混 φ1cm以下の礫少量	101	10YR2/3黒褐色粘質土 粗砂混 炭・焼土少量混 (堅穴建物425)
22	10YR3/4暗褐色粘質土 φ1~3cmの礫中量 炭・焼土混	63	10YR4/6褐色細砂 シルト混 φ2~5cmの礫中量	102	10YR2/3黒褐色粘質土 粗砂混 炭・焼土少量混
23	10YR4/3にぶい黄褐色細砂 粗砂混 φ5~20cmの礫少量 炭・焼土混	64	10YR3/4暗褐色細砂 シルト混 φ1cm以下の礫中量	103	10YR4/2灰黄褐色+4/3にぶい黄褐色粘質土 粗砂混 炭・焼土少量混
24	10YR4/6褐色細砂 粗砂混 φ0.5~5cmの礫中量 焼土混	65	10YR3/3暗褐色細砂 シルト混 φ1~10cmの礫少量	104	10YR4/2灰黄褐色粘質土 粗砂混 炭・焼土少量混
25	10YR3/4暗褐色細砂 粗砂混 φ0.5~5cmの礫中量 炭混	66	10YR3/3暗褐色細砂 シルト混 φ1~5cmの礫少量	105	10YR3/3暗褐色細砂 シルト混
26	10YR4/6褐色細砂	67	10YR4/4褐色粗砂 φ1~10cmの礫少量	106	10YR2/2黒褐色粘質土 粗砂混
27	7.5YR4/4褐色細砂 シルト混 堅化面	68	10YR3/3暗褐色粘質土 粗砂混 φ0.5~20cmの礫少量 炭・焼土混 (堤135)	107	10YR2/1黒色粘質土 粗砂混
28	10YR4/3にぶい黄褐色+4/2灰黄褐色細砂 粗砂混 φ1~2cmの礫少量 炭・焼土やや少量混	69	10YR3/2黒褐色粘質土 粗砂混 φ0.5~1cmの礫少量 炭混	108	10YR2/2黒褐色粘質土 粗砂混 (土坑383)
29	10YR4/3にぶい黄褐色+4/4褐色細砂 φ1~3cmの礫中量 炭混	70	10YR2/2黒褐色粘質土 φ0.5~1cmの礫少量 炭・焼土混	109	10YR3/2黒褐色粘質土 粗砂混
30	10YR4/4褐色細砂 粗砂混 φ0.5~1cmの礫少量 炭・焼土混	71	10YR2/2黒褐色粘質土 粗砂混 焼土混	110	10YR4/3にぶい黄褐色細砂 シルト混
31	10YR4/4褐色細砂 粗砂混 φ1~5cmの礫中量 炭・焼土混	72	10YR3/4暗褐色細砂 粗砂混 φ1~10cmの礫少量	111	2.5Y5/4黄褐色粘質土 シルト混
32	10YR4/2灰黄褐色粘質土 φ1~5cmの礫少量 炭・焼土混	73	10YR3/4暗褐色粘質土+2/2黒褐色粘質土ブロック φ0.5cm以下の礫少量	112	10YR3/1黒褐色粘質土 シルト混
33	10YR4/6褐色+5/8黄褐色細砂 粗砂混 φ1~3cmの礫中量	74	10YR3/4暗褐色粘質土 φ1~3cmの礫少量 炭・焼土混 (溝147)	113	7.5YR2/2黒褐色粘質土 φ6cm以下の礫少量
34	10YR5/4にぶい黄褐色粘質土 粗砂混 φ0.5~1cmの礫少量 炭・焼土混	75	10YR4/3にぶい、黄褐色 φ10cm以下の礫少量	114	10YR3/2黒褐色細砂 粗砂混 φ3cm以下の礫少量 (溝379)
35	7.5YR4/3褐色細砂 粗砂混 φ10cm以下の礫少量 炭・焼土混	76	10YR3/4暗褐色粘質土 土器細片混	115	10YR2/3黒褐色細砂 粗砂混 (溝426)
36	炭層	77	10YR3/4暗褐色粘質土 φ5cm以下の礫少量 土器細片混		
37	10YR4/4褐色粘質土 炭・焼土混	78	10YR4/2灰黄褐色粘質土 φ3cm以下の礫少量 土器細片混		
38	10YR4/2灰黄褐色粘質土 シルト混 炭・焼土混	79	10YR3/3暗褐色粘質土 φ3cm以下の礫少量 土器細片混		
39	10YR4/4褐色粘質土 粗砂混 φ1cm以下の礫少量 底部にφ0.5cm以下の礫層状に堆積 炭・焼土混	80	10YR3/4暗褐色粘質土 粗砂混 炭・焼土混		
40	10YR4/2灰黄褐色粘質土+6/8明黄褐色細砂 シルト混				
41	10YR4/3にぶい黄褐色粘質土 焼土混				

図10-2 土器土層

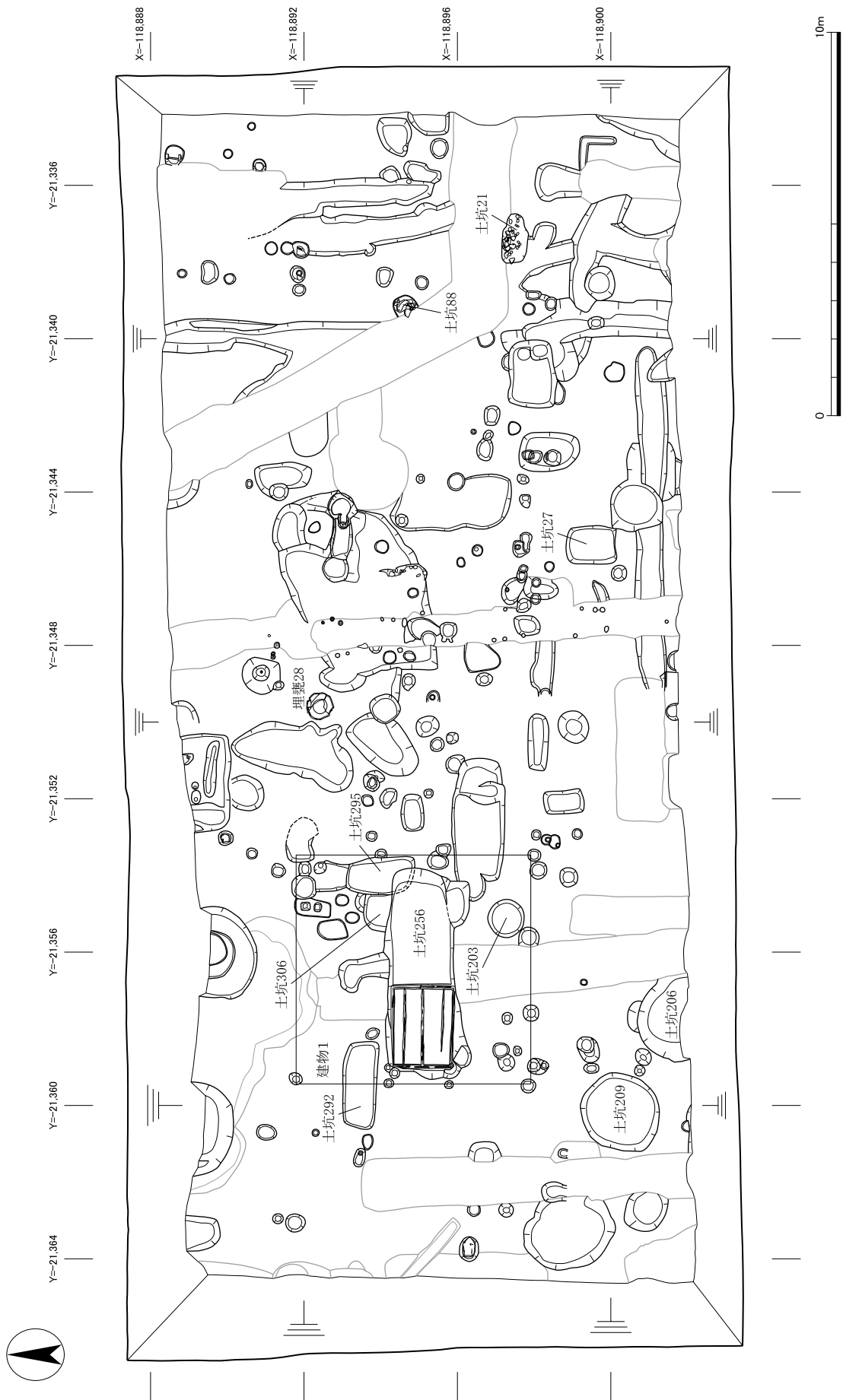


图11 第1面遺構平面图 (1 : 150)

墓の周溝と考えられる。竪穴建物は2棟を重複して検出した。土坑370は工房関連遺構の可能性が考えられる。

(3) 桃山時代から江戸時代の遺構 第1面 (図11、図版1)

土坑21 (図13) 調査区東部中央で検出した土坑である。土坑の北半部は削平されるが、検出規模は東西1.26m、南北0.68m以上、深さ0.48m、形状は不整形である。埋土はにぶい黄褐色細砂を中心とし、瓦片や20cm大の礫を多く含む。

土坑27 調査区中央南寄り検出した方形の土坑である。規模は東西1.0m、南北1.32m、深さ0.18m、埋土は黄褐色砂質土層である。18世紀以降の完形の土師器皿が出土した。

土坑88 (図13) 調査区東部中央で検出した土坑である。土坑の西半部は削平されているため、形状は不明である。規模は東西0.25m、南北0.66m、深さ0.2m、埋土は炭・焼土混じりの灰黄褐色細砂層である。5～40cm大の礫が含まれる。

土坑203 調査区西部南寄り検出した、径1.0m、深さ0.5mの円形の土坑である。肩口から垂直に掘られており、素掘りの井戸の可能性もあるが、湧水などの痕跡は確認できなかった。棧瓦が大量に投棄されていた。

埋甕28 (図12、図版2) 調査区中央北寄り検出した埋甕遺構である。上部は削平され口縁部は欠損するが、検出面での掘形は径0.72mの円形、深さ0.36m、備前大甕が据えられる。甕と掘形には隙間がなく、甕を据えた後に、甕の周囲を埋めたものと思

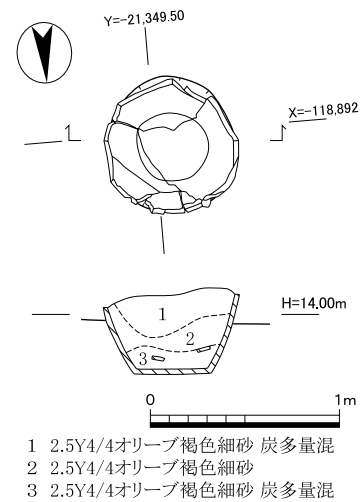


図12 埋甕28実測図 (1 : 40)

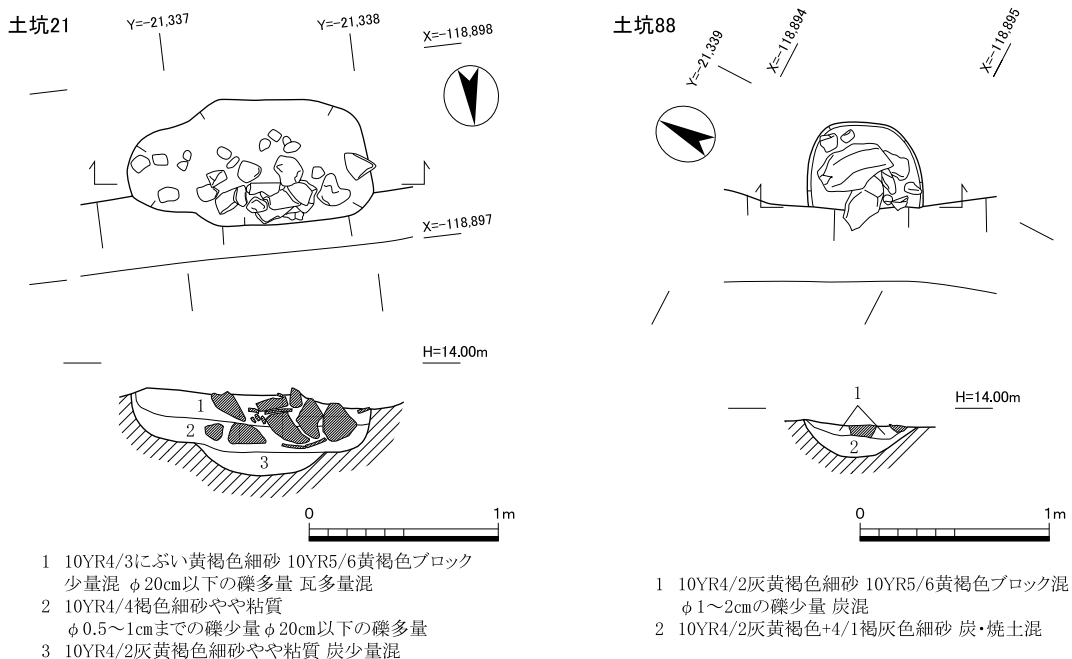
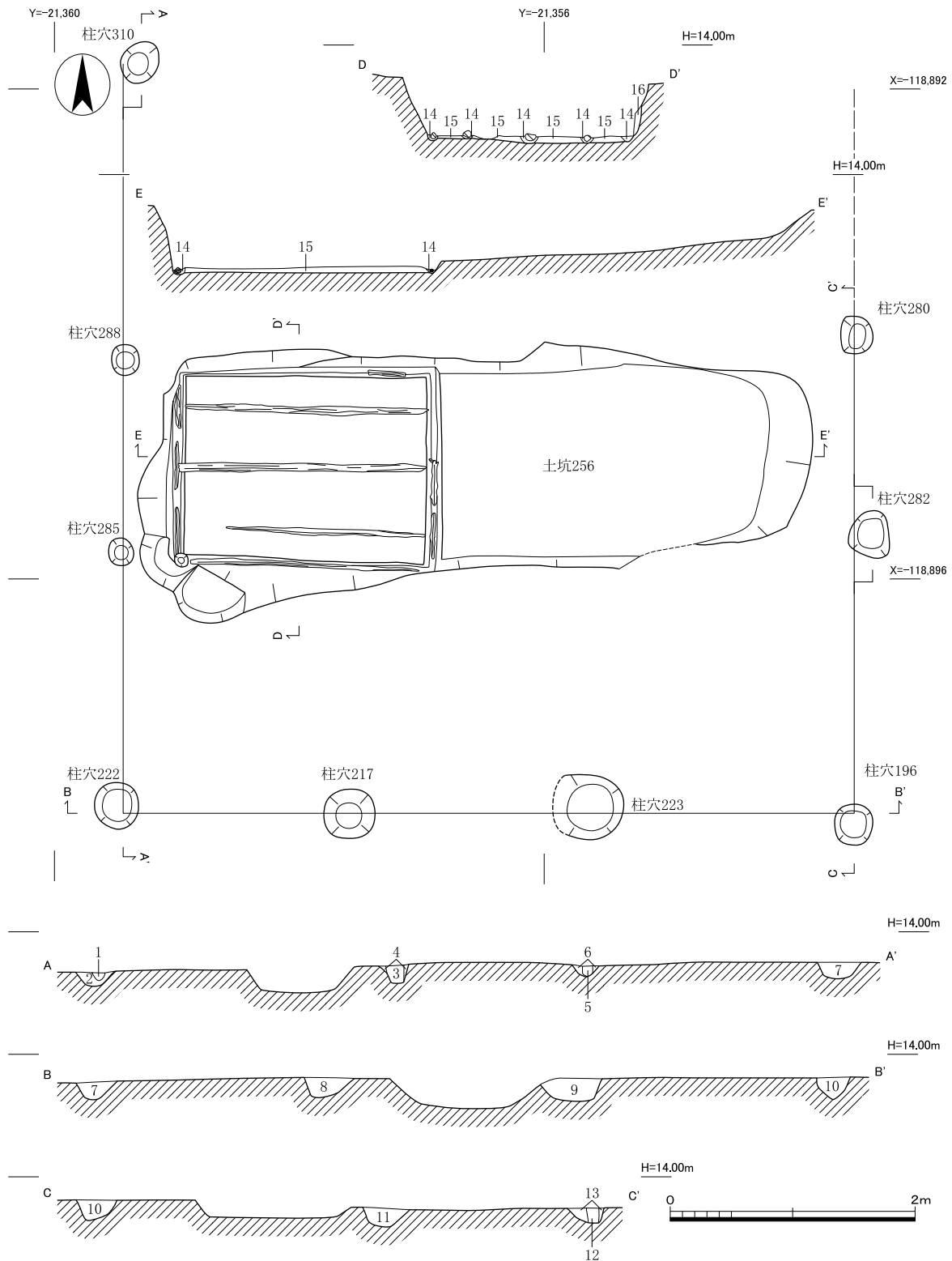


図13 土坑21・88実測図 (1 : 40)



- | | |
|---|--------------------------------------|
| 1 10YR4/6褐色細砂 | 9 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土 φ3cm以下の礫・焼土少量混 |
| 2 10YR3/4暗褐色粘質土 粗砂混 | 10 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土 φ3cm以下の礫・炭・焼土少量混 |
| 3 10YR3/4暗褐色細砂 | 11 10YR3/4暗褐色粘質土 φ0.5cm以下の礫・炭少量混 |
| 4 10YR4/6褐色粘質土 φ3cmの礫少量、粗砂混 | 12 10YR4/2灰黄褐色細砂 |
| 5 10YR4/4褐色細砂 | 13 10YR3/3暗褐色粘質土+10YR4/4褐色細砂 炭・焼土少量混 |
| 6 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土 | 14 10YR2/2黒褐色粘土 シルト含む |
| 7 10YR4/4褐色粘質土 φ1cm以下の礫少量混 | 15 10YR4/2灰黄褐色粘質土 シルト含む+10YR5/6黄褐色細砂 |
| 8 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土 φ3cmの礫・10YR5/6黄褐色細砂少量混 | 16 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土 粗砂含む φ0.5cmの礫少量混 |

図14 建物1・土坑256実測図 (1 : 50)

われる。甕内面に尿石と思われる白色の痕跡があることから、トイレ遺構と思われる。埋土はオリブ褐色細砂で炭を多量に含む。

建物1・土坑256（図14、図版2） 調査区西部で検出した南北3間、東西3間の掘立柱建物である。柱間は南北1.6～2.45m、東西1.9～2.1mである。北端は、柱穴310以外は削平されたため検出できなかった。柱穴の形状はほぼ円形、規模は径0.22～0.54m、深さは0.1～0.19mである。

土坑256は東西5.3m、南北1.8～2.0mの方形土坑である。西半部の東西2.2m・南北1.8mを方形に0.1m掘り下げ、北・西壁に側板、床面には東西方向に並べた丸太5本を検出した。丸太は北壁から0.3m、0.5m、0.5m、0.3mの間隔に敷かれている。東半部の底面は東から西へ緩やかに下がる傾斜面となっており、高低差は約0.3mである。半地下式の貯蔵施設を伴う建物と考えられる。貯蔵施設は、方形に掘り込んだところに板材を升形に組み、根太となる丸太を渡す。東半部の斜面は貯蔵庫への出入り口と考えた。埋土には江戸時代後期以降の土器類が多量に投棄された状態であったが、床面直上からは江戸時代前期の土師器が出土した。

土坑206（図15） 調査区西部南壁付近で検出した土坑。南半部は調査区外となるため、形状は不明である。規模は東西2.4m、南北1.3m以上、深さ1.06mである。埋土は褐色細砂・褐色粘質土に焼土・炭混じりを中心とする。肩口からほぼ垂直に掘り込まれ、底部には凹凸がある。土取穴の可能性が考えられる。埋土からは、伏見城域の調査で出土する江戸時代前期の特徴的な土師器皿が出土した²⁾。

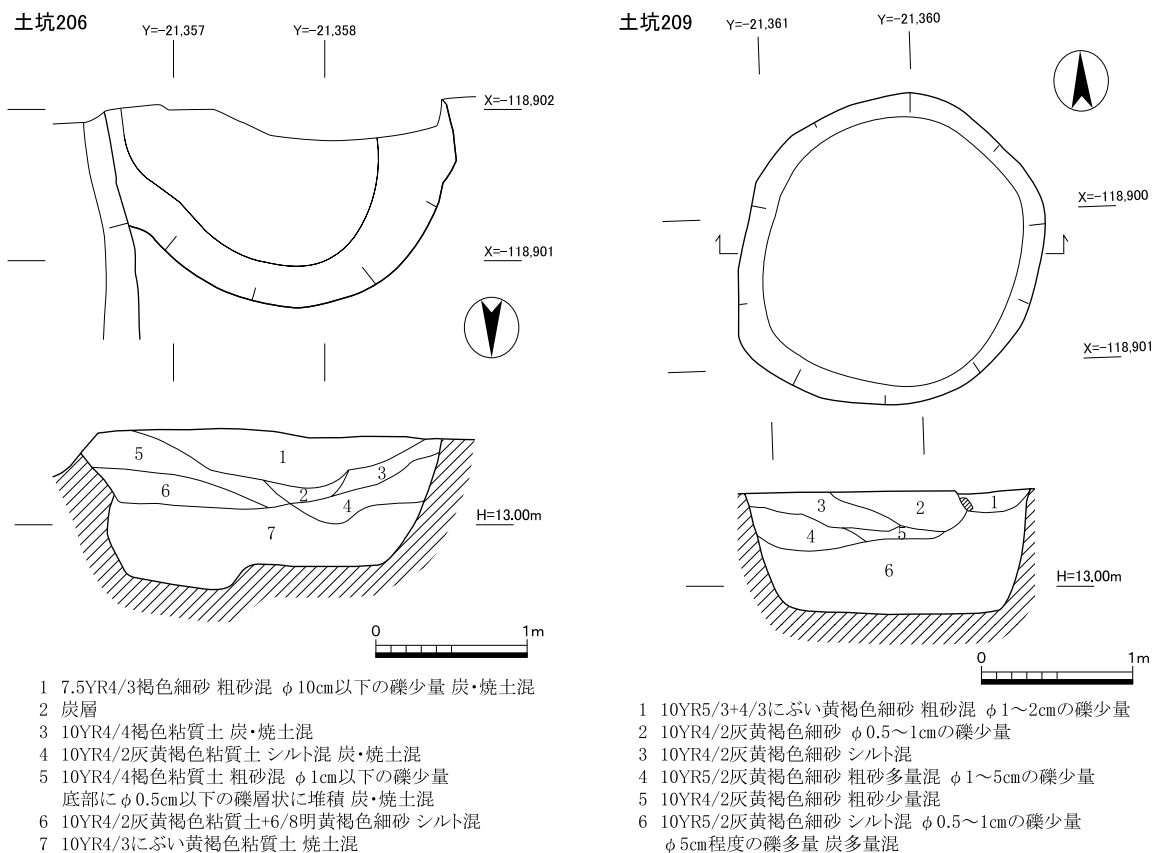


図15 土坑206・209実測図（1：50）

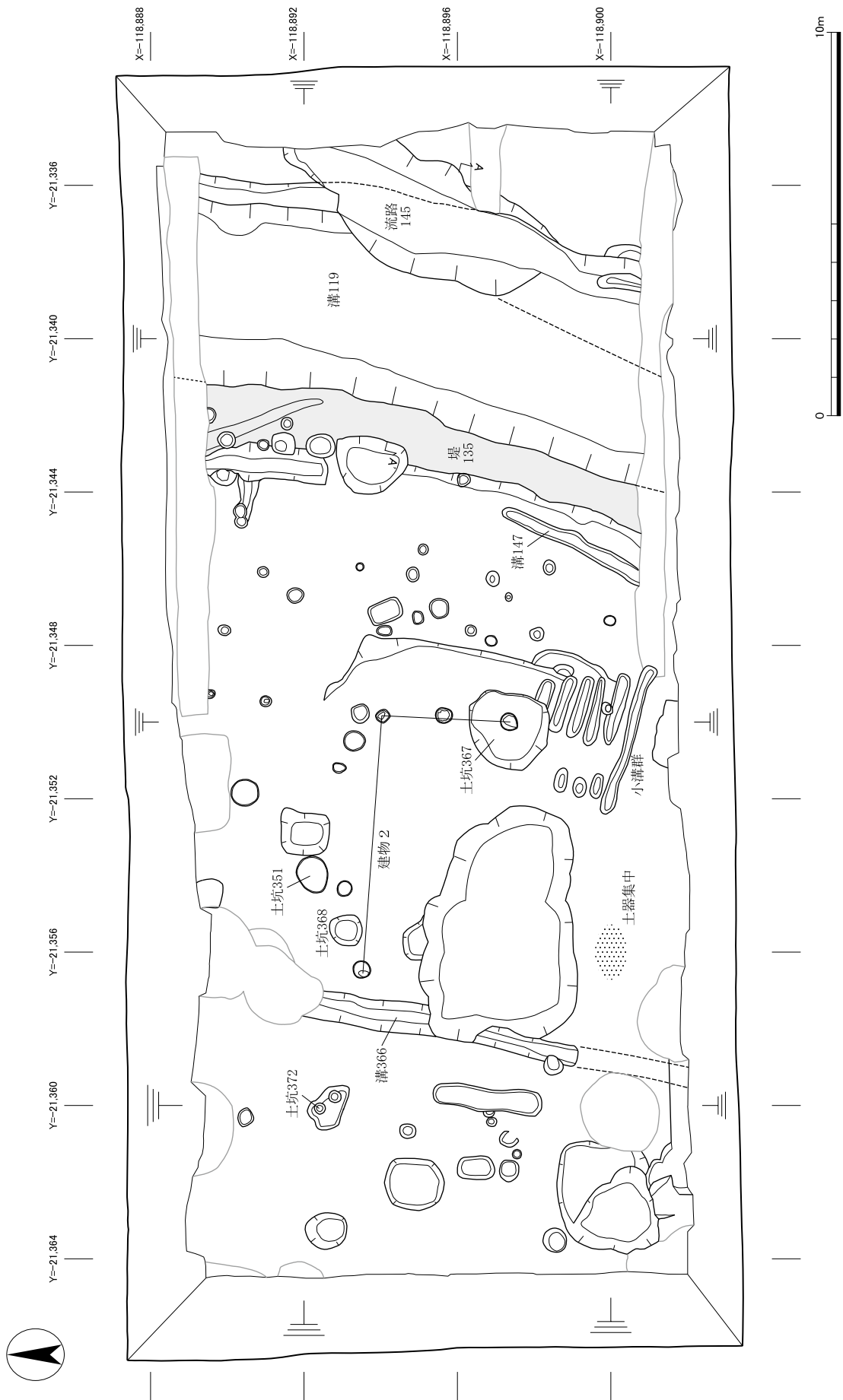


图16 第2面遺構平面图 (1 : 150)

土坑209 (図15) 調査区西部南寄りで検出した円形土坑、規模は東西1.6m、南北1.5m、深さ0.84mである。埋土は礫混じりのにぶい黄褐色細砂層などで、下層は炭を多量に含む。肩口から垂直に掘り込まれる。井戸の可能性もあるが、井戸枠などは確認できなかった。埋土からは、土坑206と同様の土師器皿が出土した。

土坑292 調査区西部北寄りで検出した、東西2.3m、南北0.92m、深さ0.2mの方形土坑である。埋土はにぶい黄褐色細砂層、土師器の灯明皿などが出土した。

土坑295 調査区西部中央で検出した東西0.98m、南北1.8m、深さ0.38mの方形土坑である。土坑256に切られる。

土坑306 調査区西部中央で検出した東西1.24m、南北2.74m、深さ0.1～0.3mの方形土坑である。中央を土坑256に削平される。

桃山時代整地層 (図8・9) 調査区全域で検出した。調査区北東部では層厚0.3m、下層第2面の溝119付近では層厚0.4～0.95mと厚くなり、西端では層厚0.3～0.4mとなる。北東部での整地層上面の標高は14.25m、南西部では13.7m、やや西へ緩やかに下がるが、ほぼ平坦である。伏見城下町造営時の整地層と考えられる。この上面を第1面とした。

(4) 平安時代から室町時代の遺構 第2面 (図16、図版3)

土坑367 (図17) 調査区中央南寄りで検出したやや不整形の円形土坑である。規模は径約2.1m、深さ0.5m、北から南へと傾斜する。埋土はにぶい黄褐色粘質土などである。掘立柱建物2を形成する柱穴358の下層より検出した。出土遺物はごくわずかで室町時代の土器が出土した。肩口からほぼ垂直に掘り下げ、南半部は深くなる。土取穴と思われる。

流路145 (図18) 北東から南西方向に流れる流路である。規模は幅2.5m、検出長6m、深さ0.3m、東端は調査区外へ続く。埋土は明黄褐色粗砂、黄褐色シルト、灰黄褐色粘土層などの堆積がみられる。粗砂、シルトなどに流水痕跡があることから、流路と考えられる。出土遺物は少量で平安時代末期から鎌倉時代の遺物が出土した。溝119の一部を切った状態であるが、出土遺物からは時期差はみられなかった。断面観察から、溝119が埋没後の流れとなる。

溝119 (図18、図版4) 調査区東部で検出した北から南に流れる溝である。北・南側ともに調査区外へ続く。幅は北部で5.8m、南部は6m、

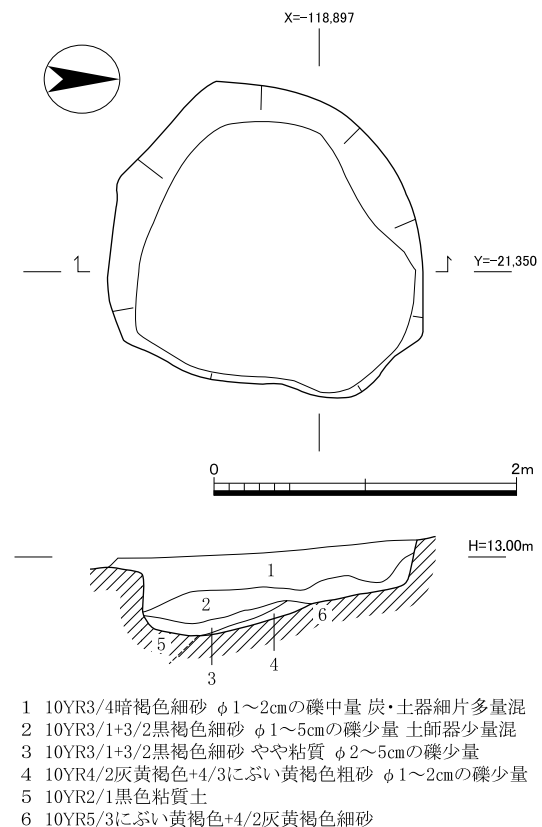


図17 土坑367実測図 (1:50)

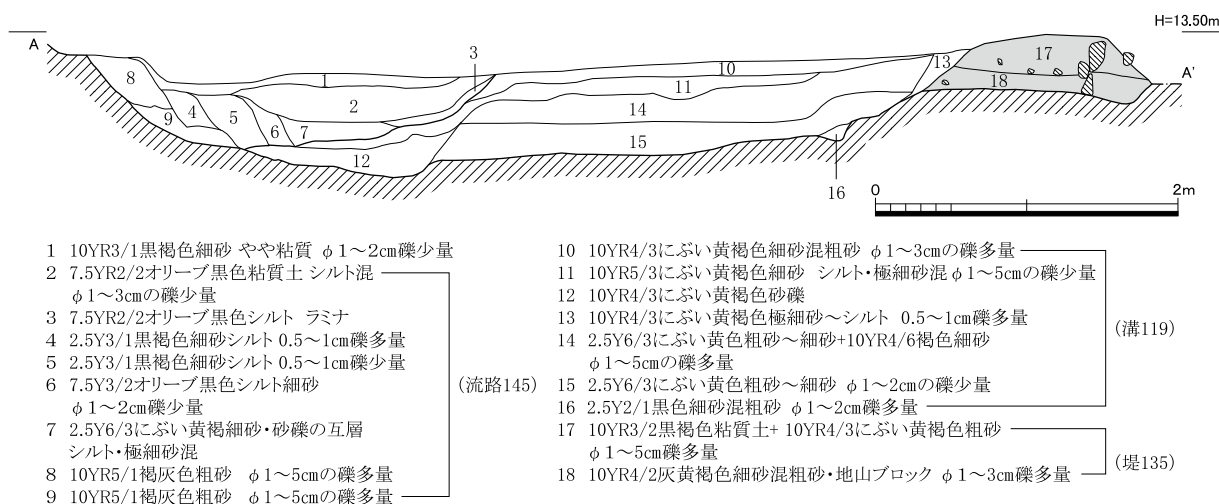


図18 溝119中央セクション断面図(1:50)

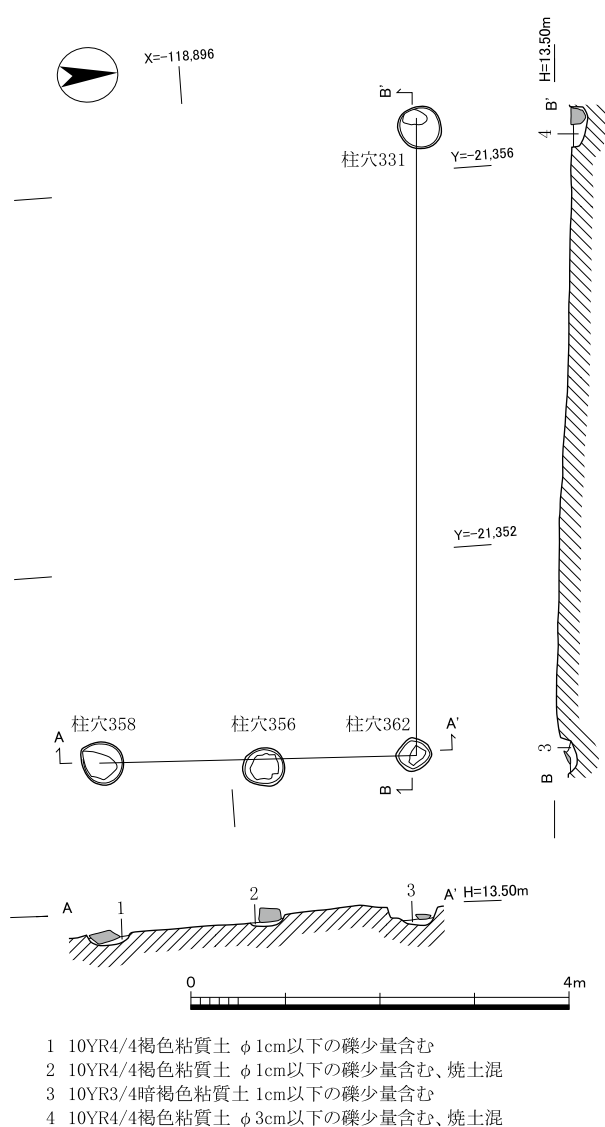


図19 建物2実測図(1:80)

深さは0.8~0.9m、検出長13m分を確認した。埋土は褐色粗砂層・暗褐色細砂層に砂礫・シルト層など多数の層が互層となって堆積し、両肩部には黒色シルトや細砂、粘土層が堆積するなど流水痕跡を示している。平安時代末期から室町時代の遺物が出土した。

堤135(図18) 溝119の西肩部に平行する高まりを検出した。規模は幅1.2~1.4m、高さ0.25~0.4mが残存する。地山直上に灰黄褐色粗砂層、粘土層、地山の暗灰黄色細砂層など、5~15cm大の礫を含み、互層に積みあがる。東側が高い地形であることから、溝119の西側への氾濫を抑える堤防として築かれたと考えられる。

溝147 堤135の西側で検出した。溝の規模は幅0.4m、検出長4.5m、深さ0.34m、埋土は暗褐色粘質土層である。中央部分は確認できなかったが、調査区北壁の断面観察により溝がさらに調査区北へと連続することを確認した。堤の裾部に並行していることから、堤に伴う溝と考えられる。

建物2（図19、図版4） 調査区中央西寄りで検出した南北2間以上、東西は不明である。南北柱間は北から1.6m、1.7m、東西は6.6m離れて柱穴を検出した。いずれも底部に径0.2～0.3mの石を据える。柱穴からは遺物は出土していない。

小溝群 調査区中央南寄りで検出した北西から南西方向の溝群である。溝は6条検出した。規模は幅0.28～0.38m、深さ0.08～0.1m、いずれも断面形状は浅いU字型である。埋土は暗褐色から黒褐色粘質土層、土師器小片と瓦器片がわずかに出土した。耕作に伴う畝溝と考えられる。

土坑368 調査区西部北寄りで検出した円形の土坑である。規模は径0.8m、深さ0.1m、埋土は暗褐色粘質土層、土師器皿、瓦器椀などがまとまって出土した。

溝366 調査区西寄りで検出した、北でやや東に振れる南北方向の溝である。北・南を後世の遺構に壊されるが、調査区南壁の断面確認により南は調査区外へと続くことを確認できた。検出規模は幅0.8～1.4m、南北長9.9m以上、深さ0.3～0.5m、埋土は暗褐色粘質土などである。溝119や小溝群などと同様の傾きをもつことから、これらと関連する溝の可能性が考えられる。

土坑372 調査区西部北寄りで検出した径0.3mの円形小土坑である。平安時代中期の土師器が出土した。

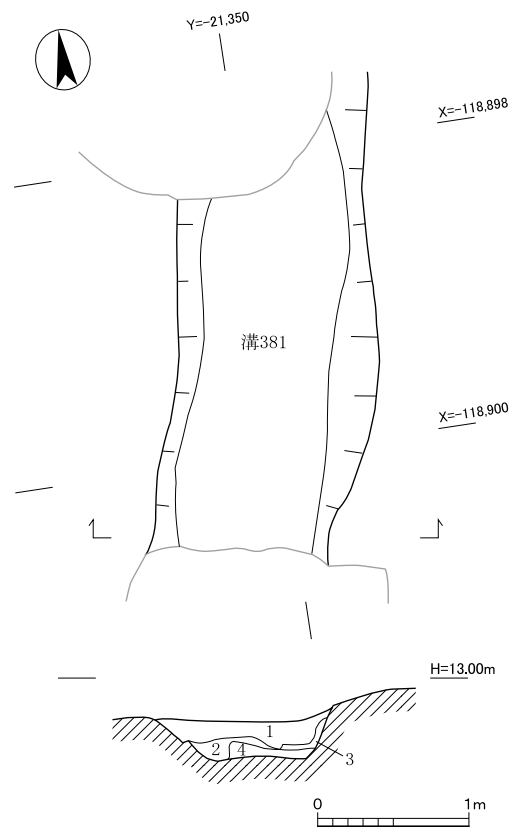
鎌倉時代整地層 調査区東部では層厚0.2m、中央部から西部にかけては徐々に厚くなり、西端では層厚0.6mとなる。調査区全域で検出した。弥生時代から鎌倉時代の遺物が含まれるが、主に鎌倉時代の遺物が出土した。調査区西部南寄りで、土器が多量に出土した箇所がある。瓦器の椀、鍋、羽釜などが多数出土した。この整地層は大きく2層に分かれるが、溝366などは下層の整地に伴う遺構である。

（5）弥生時代から奈良時代の遺構

第3面（図21、図版5）

溝381（図20） 調査区中央南寄りで検出した南北方向の溝である。溝の規模は幅1.0～1.3m、南北長4.5m以上、深さ0.25m、埋土は灰黄褐色細砂・黒褐色細砂混礫、炭・焼土混じりなどである。南端は中世の遺構に壊され、また調査区外へと続く。飛鳥時代の土器が出土した。

竪穴建物425（図22、図版6） 調査区中央南寄りで検出した、東西4.7m、南北2.2m以上の隅丸方形の竪穴建物である。建物の底面は深いところで検出面から約0.6m、壁溝は幅0.2m、深さ0.22mであ



- 1 10YR6/3にぶい黄橙色+5/3にぶい黄褐色細砂 炭・焼土混
- 2 10YR4/2灰黄褐色細砂 φ1～2cmまでの礫少量
φ0.1～0.2cmの礫多量
- 3 10YR3/2黒褐色細砂 φ2cm以下の礫極少量
- 4 10YR2/2黒褐色細砂やや粘質 φ0.1～0.2cmの礫中量

図20 溝381実測図（1：50）

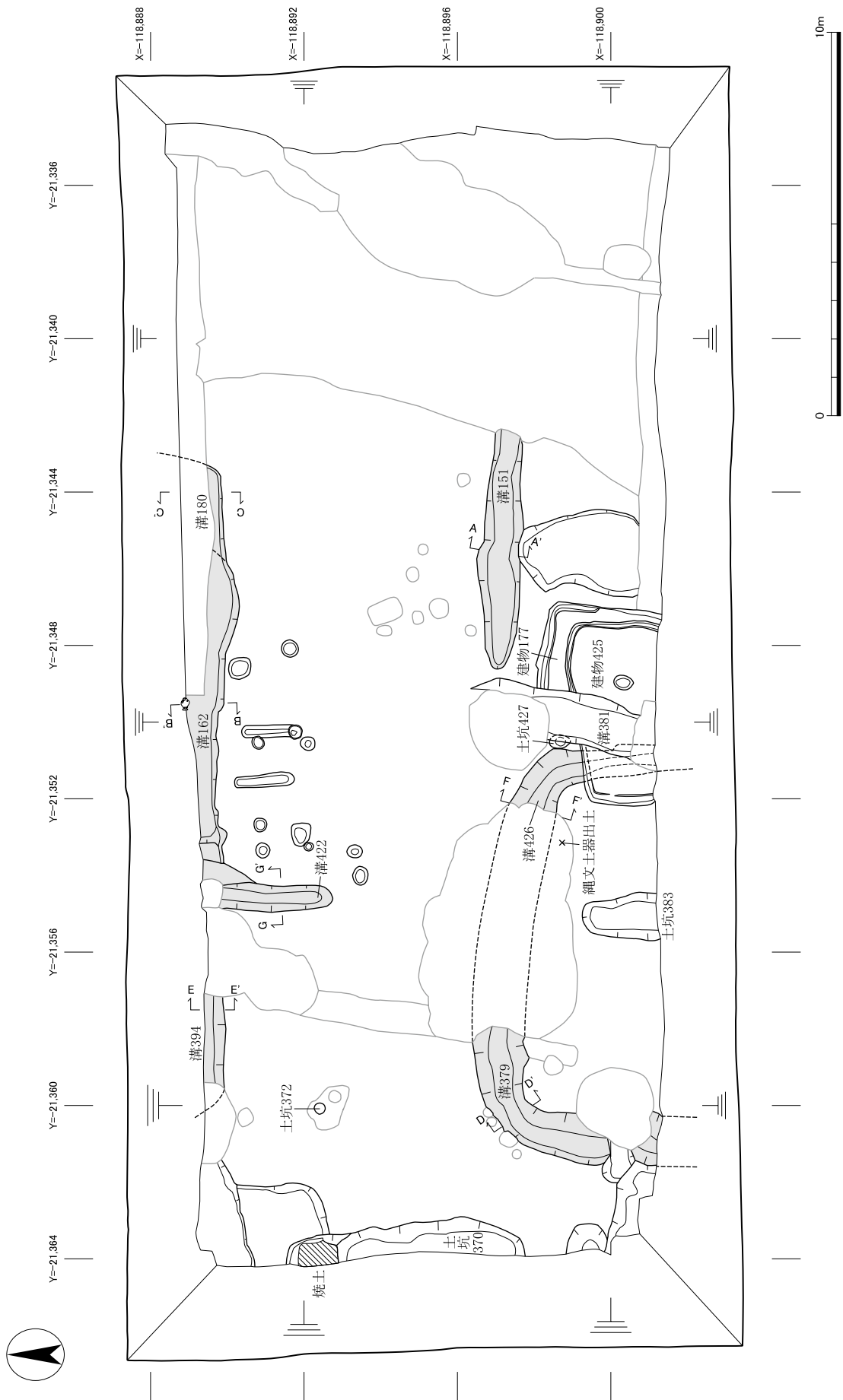


图21 第3面遺構平面图 (1 : 150)

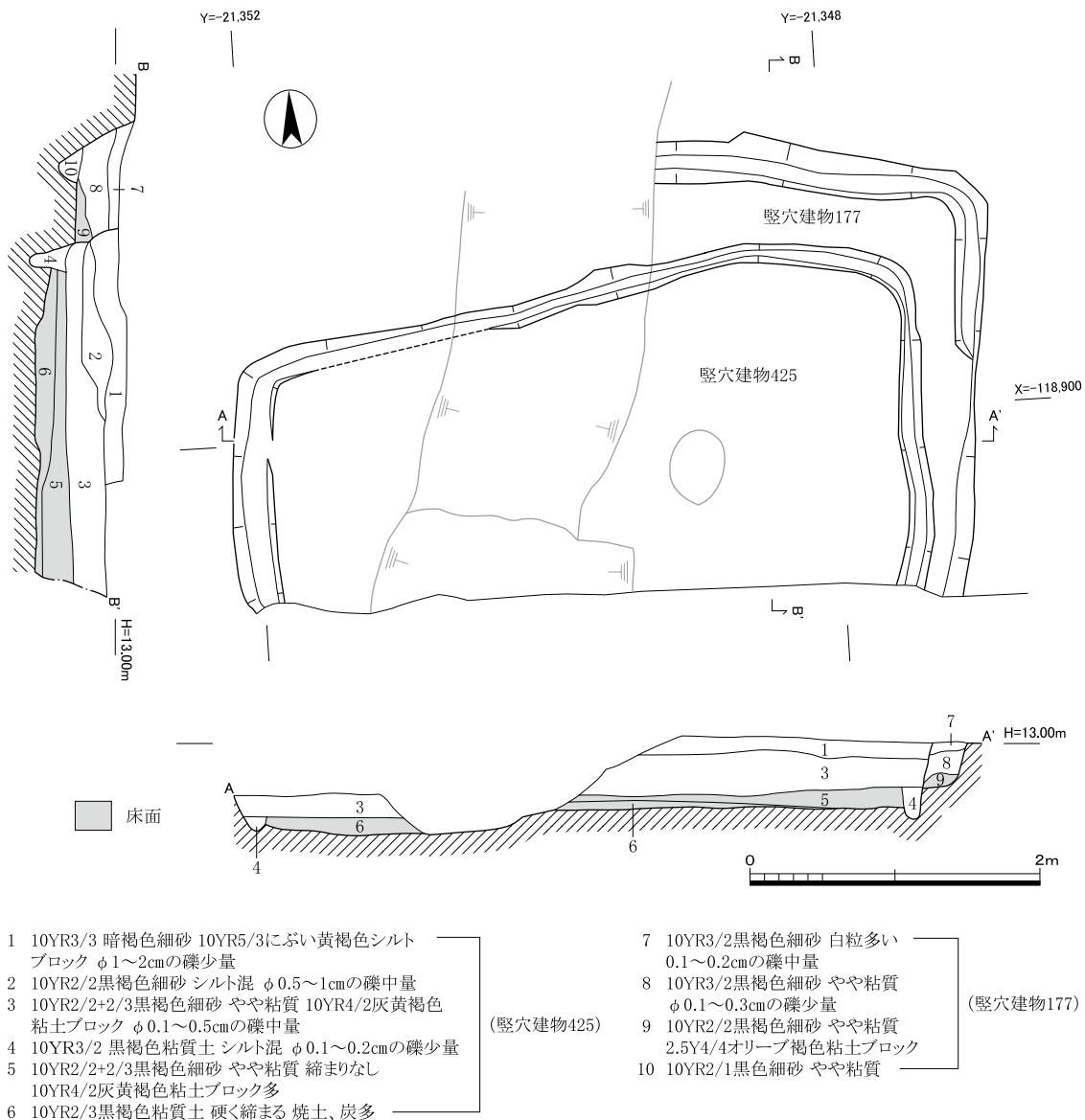


図22 堅穴建物177・425実測図（1：50）

る。床面は灰黄褐色粘土ブロックを含む黒褐色細砂層（5層）と炭が混入する黒褐色粘質土層（6層）である。西半部は後世の遺構により壊される。重複関係から堅穴建物177より新しい。飛鳥時代の土器が出土した。

堅穴建物177（図22、図版6） 調査区中央南寄りで検出した、東西2.2m以上、南北3m以上の隅丸方形の堅穴建物である。建物の底面は深いところでは検出面から約0.3mの深さであるが、西半は後世の遺構に壊され、規模は不明である。埋土は黒褐色細砂を主とするが、床面はオリーブ褐色粘土を含む（9層）。幅0.2m、深さ0.16mの壁溝を検出したが、柱穴は確認できなかった。建物の大半は堅穴建物425に切られ、重複して検出した。飛鳥時代の土器が出土した。

土坑427（図23、図版6） 調査区中央南寄りで検出した南北0.6m、東西0.4m、深さ0.15mの小型の土坑で、埋土は灰黄褐色細砂である。上部は溝381に削平される。飛鳥時代の土師器杯・甕、須恵器杯が出土した。土器はいずれも破損し、原位置を保たないが、土器を埋納していた遺構の可

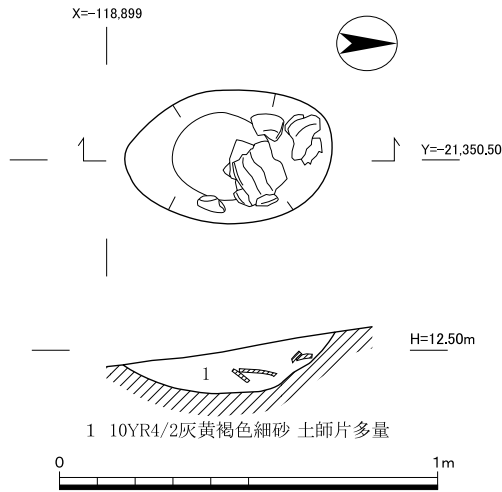


図23 土坑427実測図（1：20）

能性も考えられる。

土坑370（図9） 調査区西部中央で検出した土坑である。規模は南北6.2m、東西1.0m以上、深さ0.45m、西は調査区外となるため、遺構の形状は不明である。埋土は黒褐色粘質土から黒色シルトで、厚さ0.12mの炭化物を多量に含む明赤褐色焼土層（21層）が土坑の一部を覆う。埋土から鉄滓、窯壁が出土したことから、鑄造などに伴う工房関連遺構と考えられる。古墳時代後期から飛鳥時代の土器が出土した。

溝151（図24） 調査区東部で検出した東西方向の溝である。溝の規模は幅1.5m、東西長6.2m以上、深さ0.3m、溝の断面形状は逆台形、埋土は暗褐色細砂シルト混じりである。東端は溝119に削平されるため詳細は不明であるが、方形周溝墓の周溝の可能性が考えられる。

溝162（図24、図版6） 調査区北壁沿いで検出した東西方向の溝である。溝の規模は幅0.9m以上、東西長7.6m以上、深さ0.4mである。埋土は暗褐色シルト細砂混じりである。北肩部は調査区外へ続く。検出した溝の最深部の底部に接して壺が出土した。壺は溝の方向に平行して、口縁部を西に向けた横位で、ほぼ水平である。胴部下位には焼成後の穿孔が2穴あり、それらを上にした状態で検出した。壺内部には土が充満しており、壺内部から口縁部の破片が出土した。頸部から底部はほぼ完形である。壺は形態や施文の特徴から、弥生時代中期前半（第Ⅱ様式）のものである。

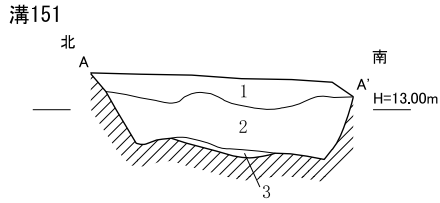
溝180（図24） 調査区東部北壁沿いで検出した東西方向の溝である。溝の規模は幅1.0m、東西長2.5m以上、深さ0.23m以上、北肩部は調査区外へ続き、西は溝162に切られる。埋土は黒褐色粘質土粗砂混じりである。

溝379・426（図24） 調査区南西部で一辺約11mの方形周溝墓を検出した。溝中央を中世の遺構に攪乱されているため溝379・426と別番号としたが、一連のものである。溝幅は1.2～1.4m、深さ0.6mである。溝の断面形状はU字型、埋土は灰黄褐色粘質土・黒褐色細砂シルト混じりである。周溝東辺の上部は飛鳥時代から奈良時代の遺構に削平される。東西ともに南は調査区外へ続く。

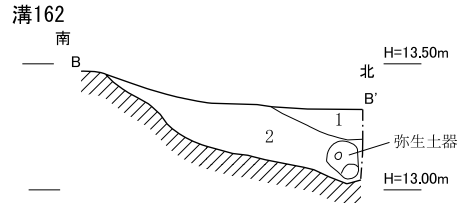
土坑383 溝379・426に囲まれた中央やや東寄りで検出した。東西1.1m、南北1.95m以上、上部は後世の遺構により壊されていたため深さ0.2mを確認したにとどまる。出土遺物はないが、方形周溝墓の主体部になる可能性も考えられる。

溝394（図24） 調査区北部で検出した東西方向の溝である。溝の規模は幅0.8m以上、東西長4.2m以上、深さ0.6m、埋土は黒褐色粘質土である。北肩部は調査区外へ続き、東端は近世の遺構に壊される。西側は北方向へ折れ曲がることを調査区北壁で確認した。

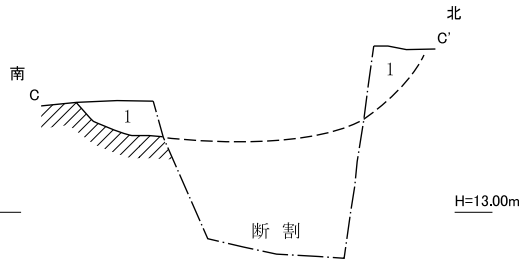
溝422（図24） 調査区北部で検出した南北方向の溝である。溝の規模は幅0.7m、南北長3.3m以上、深さ0.6m、溝の断面形状は逆台形、埋土は黒褐色粘質土粗砂混じりである。北端は中世の遺構に壊される。



- 1 10YR3/2黒褐色粘質土 10YR4/4褐色細砂ブロック多量
φ 1~2cmの礫少量 白色粒多量
- 2 10YR2/2黒褐色細砂 粗砂少量混 φ 1~2cmの礫少量
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色粗砂 粘質土混



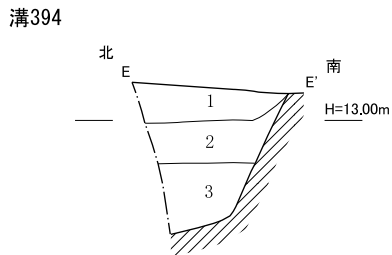
- 1 10YR2/2黒褐色粘質土 φ 3~5cmの礫多量
- 2 7.5YR2/2黒褐色砂混粘質土 焼土・土器片混



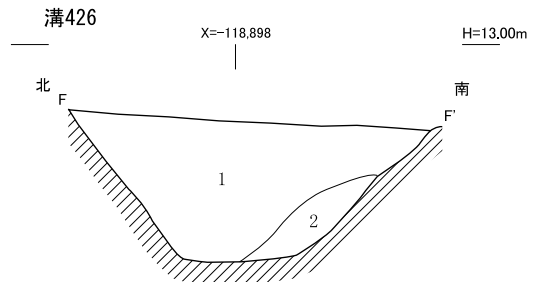
- 1 10YR2/1黒色粘質シルト 締めりなし φ 1~3cmの礫やや多量



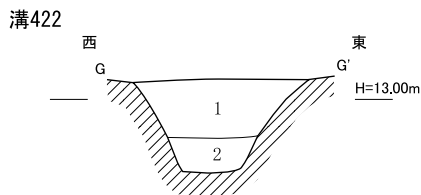
- 1 7.5YR2/2黒褐色粘質土 φ 6cm以下の礫少量
- 2 10YR3/2黒褐色細砂 粗砂混 φ 3cm以下の礫少量



- 1 10YR3/2黒褐色細砂 粗砂混 φ 3cm以下の礫少量 土器細片混
- 2 7.5YR2/1黒色粘質土 粗砂混
- 3 10YR2/1黒色細砂 シルト混



- 1 10YR2/3黒褐色細砂 粗砂・シルト混
- 2 10YR3/2黒褐色細砂 粗砂混 φ 3cm以下の礫少量



- 1 7.5YR2/2黒褐色粘質土 粗砂混 土器細片混
- 2 10YR2/3黒褐色細砂 シルト混

※ 断面の位置は図21参照



図24 溝断面図 (1 : 30)

4. 遺物

(1) 遺物の概要

遺物は整理箱に74箱出土した。内訳は土器類・瓦類72箱、石製品1箱、金属製品1箱である。出土遺物の時期は、縄文時代から近代まで幅広い年代のものがある。鎌倉時代から室町時代、江戸時代の遺物が大半を占める。

土器類には縄文土器、弥生土器、土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、輸入磁器、瓦器、焼締陶器、染付磁器、施釉陶器、土師質陶器などがある。瓦類は、丸瓦、平瓦、棧瓦以外に、軒丸瓦、軒平瓦、軒棧瓦、塼が1点出土している。石製品では、一石五輪塔、硯、砥石、石鏝片が出土している。金属製品は、銭、釘が少量出土している。その他、伏見人形、泥面子、土錘、鉄滓、窯壁が出土している。

以下では、時期の古い順に遺物の概要を述べる。なお、遺構からまとめて出土したものは、遺構ごとに記述した。詳細は付表1・2に記した。

(2) 土器類

縄文時代 (図25、図版7)

縄文時代の土器は1点のみの出土である。調査区中央南寄り、後世の遺構に攪乱された状態で出土した。1は縄文土器深鉢の底部から体部である。残存高15.4cm、底径は8.0cm、外面には条痕、内面には粘土紐積み上げ痕跡が残る。縄文時代晩期のいわゆる生駒西麓産胎土のものと思われる。

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
縄文時代	縄文土器		縄文土器1点		
弥生時代	弥生土器		弥生土器3点		
古墳時代 ～奈良時代	土師器、須恵器、鑄造関連遺物		土師器11点、須恵器7点、鑄造関連遺物		
平安時代	土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦		土師器16点		
鎌倉時代 ～室町時代	土師器、須恵器、瓦器、輸入陶磁器、焼締陶器、石製品、土製品、瓦		土師器15点、須恵器4点、瓦器23点、輸入陶磁器4点、石製品2点、土製品2点、瓦3点		
桃山時代 ～江戸時代	土師器、施釉陶器、染付磁器、焼締陶器、石製品、土製品、瓦		土師器26点、施釉陶器2点、焼締陶器1点、石製品1点、土製品4点、瓦5点		
合計		84箱	130点 (11箱)	1箱	72箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より10箱多くなっている。

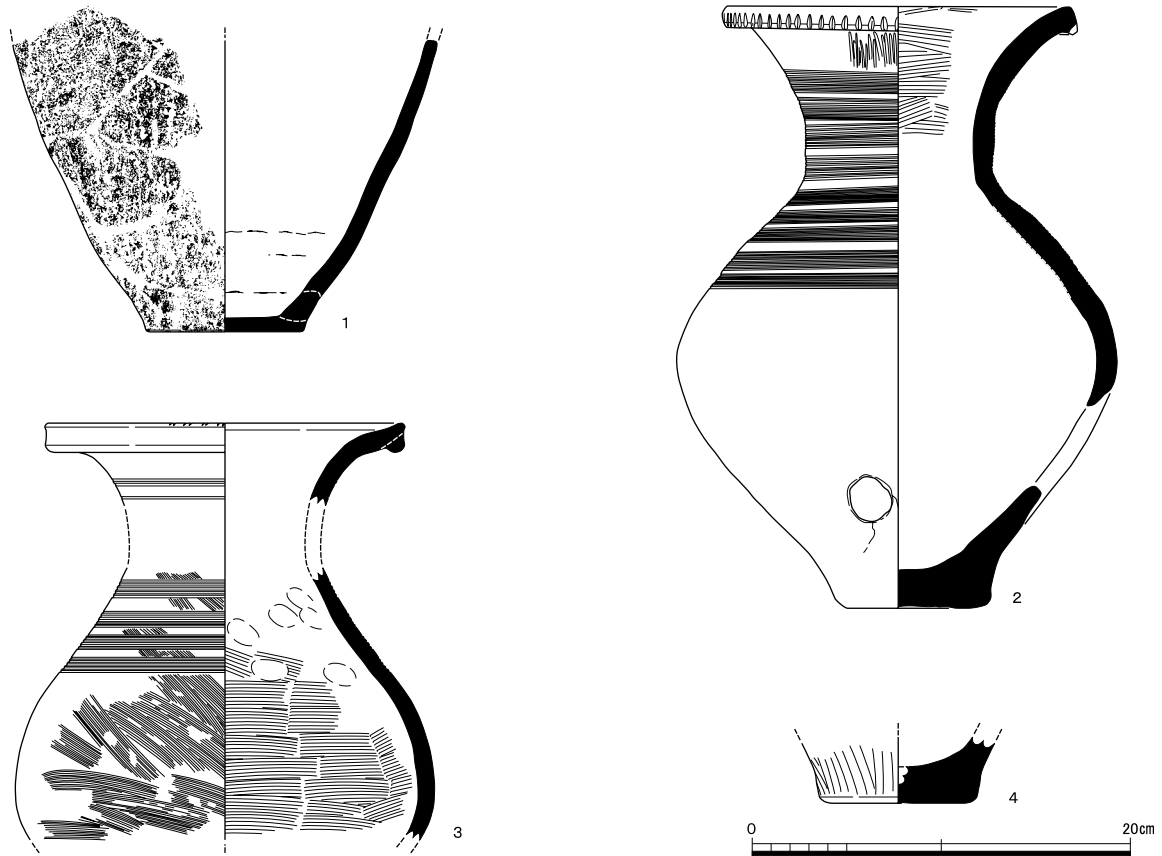


図25 縄文土器・弥生土器実測図（1：4）

弥生時代（図25、図版7）

弥生時代の土器は後世の遺構や整地層から出土したものが多く、遺構に伴うものはわずかである。溝162からは完形に近い弥生土器が出土した。

2は壺である。調査区北壁中央付近の溝162から出土した。球形に近い胴部に頸部は外傾して立ち上がり、大きく開く口縁部をもつ。底部は厚い。口縁端部は下方に拡張し、下端に刻目を施す。口縁端部はヨコナデ調整。口縁部は内面は粗いヨコハケ、外面はタテ方向のヘラミガキ調整が施されている。胴部外面は風化により、調整は不鮮明であるが、外面頸部から胴部上半には7本1単位の櫛描直線文が9条施文されている。胴部下半には2箇所の穿孔が焼成後に行われている。

3は壺の口縁部と胴部の破片である。調査区中央南寄りの第3面検出中に出土した。球形に近い胴部と大きく開く口縁部をもつ。口縁端部に刻目を施す。頸部と胴部上半には5本1単位の櫛描直線文が4条施文されている。

4は甕の底部である。竪穴建物177・425の埋土に混入して出土した。

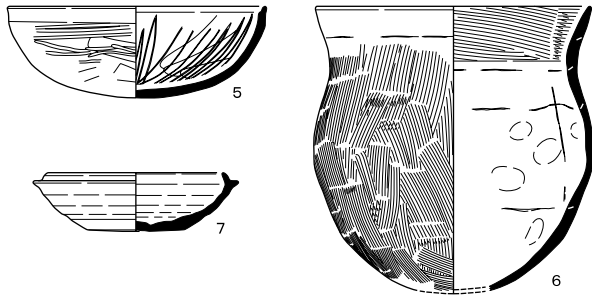
2・3は、形態や施文の特徴などから弥生時代中期前半（第Ⅱ様式）に位置付けられる。

古墳時代から奈良時代（図26、図版7）

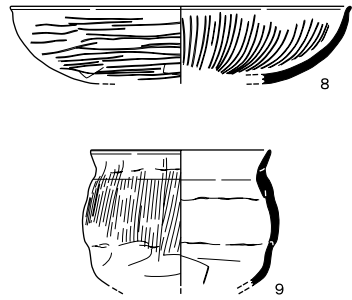
古墳時代から奈良時代の遺物は、土師器が大半で、須恵器はごくわずかである。遺物は溝や土坑から出土した。土坑427からは土師器杯・甕、須恵器杯がまとまって出土した。

土坑427出土（5～7） 土坑427からは7世紀代の土器が3点出土した。5・6は土師器の杯

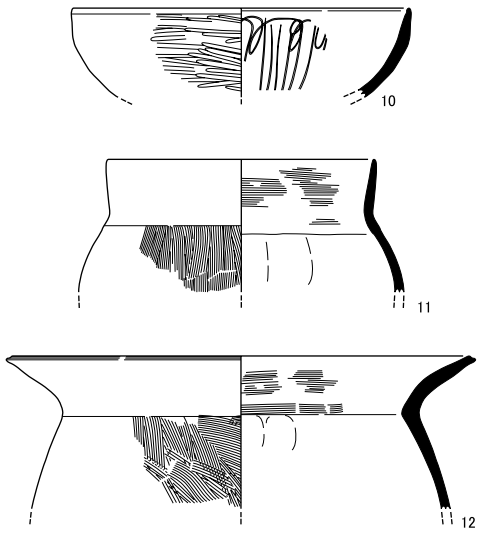
土坑427



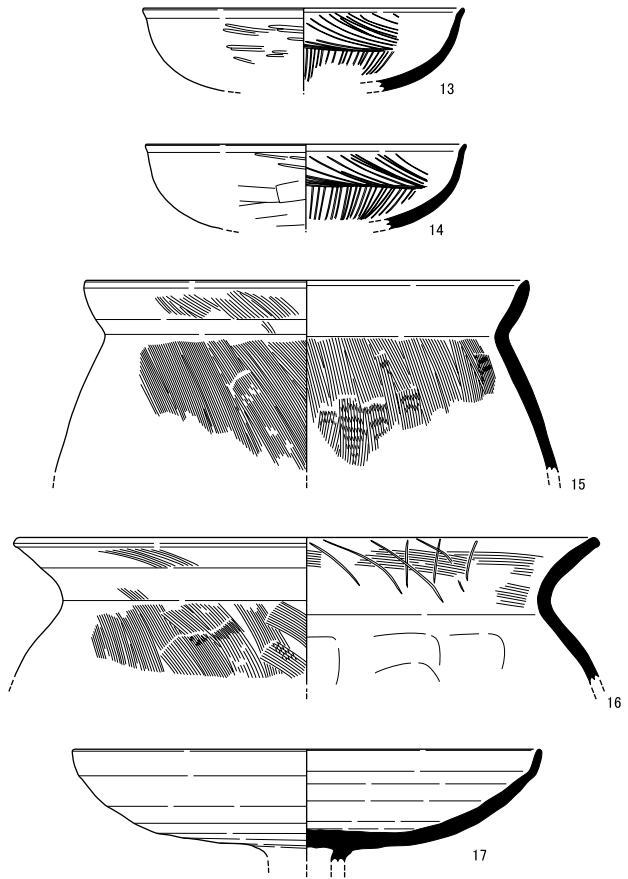
竪穴建物177



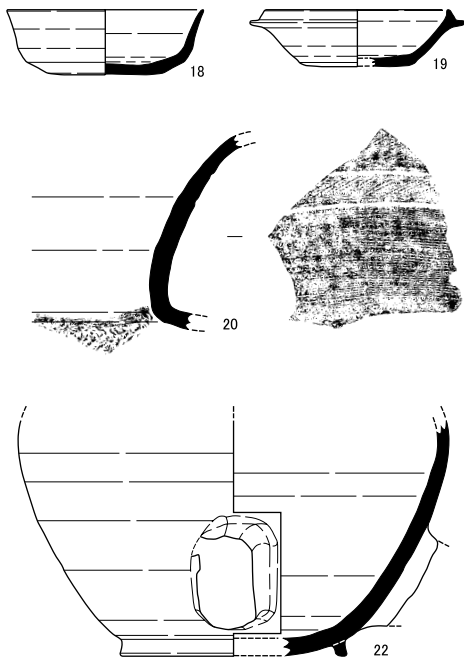
竪穴建物425



溝381



その他の遺構



土坑370

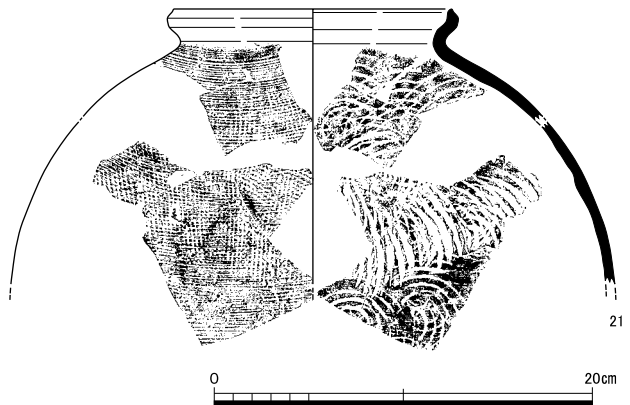


図26 古墳時代から奈良時代土器実測図 (1 : 4)

と甕である。5は丸底の底部から湾曲して立ち上がり、口縁端部は内面に小さな段を有する。底部外面はケズリ、体部はのちにヘラミガキによる調整を施す。内面は粗い暗文が施されている。6は小型の丸底の甕で、体部外面・口縁部内面にはハケメが施されている。外面に煤が付着する。7は須恵器杯身で、外面底部は平坦でヘラ切り痕が残る。内・外面はナデ調整を施す。飛鳥Ⅰ～Ⅱに比定される³⁾。

竪穴建物177出土(8・9) 8は土師器杯で、底部から内湾しながら立ち上がり、口縁端部は内傾する。底部外面にヘラケズリ痕が残る。内面は放射線状の暗文が施されている。9は土師器の小型甕である。体部外面上部は縦方向のハケのちナデ調整が施されているが、粘土紐接合痕が明瞭に残り粗雑な作りである。飛鳥Ⅱに比定される。

竪穴建物425出土(10～12) 10は土師器杯で、不明瞭であるが内面に放射状と螺旋状の暗文が施されている。11・12は土師器の甕である。11は口縁部があまり開かず立ち上がり、口縁端部は尖り気味、12は口縁部が大きく開き立ち上がり、口縁端部に面をもつ。体部外面・口縁部内面にハケメ調整が施されている。飛鳥Ⅱに比定される。

溝381出土(13～17) 13～16は土師器、17は須恵器である。13・14は杯で、底部から内湾しながら立ち上がり、口縁端部は内傾する。内面はヘラミガキ、磨滅が著しいが14には底部外面にヘラケズリ痕が残る。15は長胴甕の体部から口縁部である。口縁部は外傾しながら立ち上がり、体部の内外面はハケメ調整が施される。16は大型の甕で、外面と口縁部内面にハケメ調整、後に口縁部内面の一部に線刻が施される。17は須恵器高杯の杯部である。口径が24.6cm、高さ6.0cmの大型の杯部をもつ。平坦な底部から緩やかに立ち上がり、口縁部は屈曲して上方へ伸びる。脚部は破損しているため不明であるが、杯部底部中央にその痕跡があり、接続部分の脚の径は約5cmである。飛鳥Ⅱ～Ⅲに比定される。

土坑370出土(21) 21は須恵器の短頸の甕である。外面はタタキのち横方向のカキメが施され、内面は同心円当具の痕跡が明瞭に残る。6世紀代の可能性がある。

その他の遺構出土(18～20・22) 18～20・22は須恵器である。18・19は杯。18は平坦な底部からやや外側に立ち上がり、口縁端部は外反気味である。底部外面はヘラケズリ、その他はナデ調整が施される。19の底部は平坦で、内外面ともにナデ調整が施される。20は甕の頸部で、外面に沈線と刺突文が施される。内外面に自然釉がかかる。22は壺の底部から体部の破片である。底部は貼付高台、体部は丸みをもって立ち上がる。体部最下部に把手の痕跡が残る。18・19は7世紀代、20は6世紀代の可能性がある。22は8世紀代と思われる。18は攪乱、それ以外は鎌倉時代の整地層に混入して出土した。

平安時代(図27)

わずかであるが、平安時代前期から末期の土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器などが出土している。遺構から出土したものはわずかで、それ以外は鎌倉時代の整地層や後世の遺構に混入した状態で出土した。

土坑372出土(23～26) 23～26は土師器皿で、口径10.0～14.7cm。23は「て」の字状口縁、26

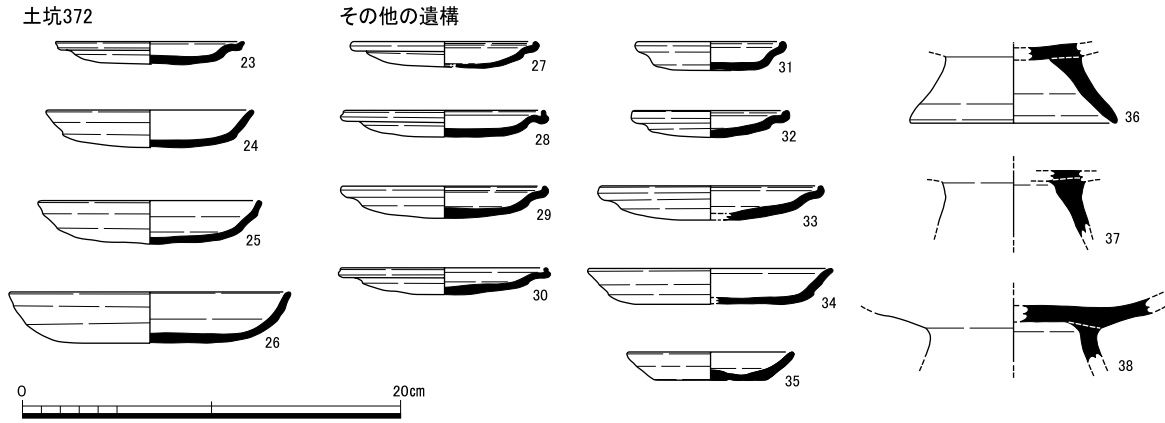


図27 平安時代土器実測図（1：4）

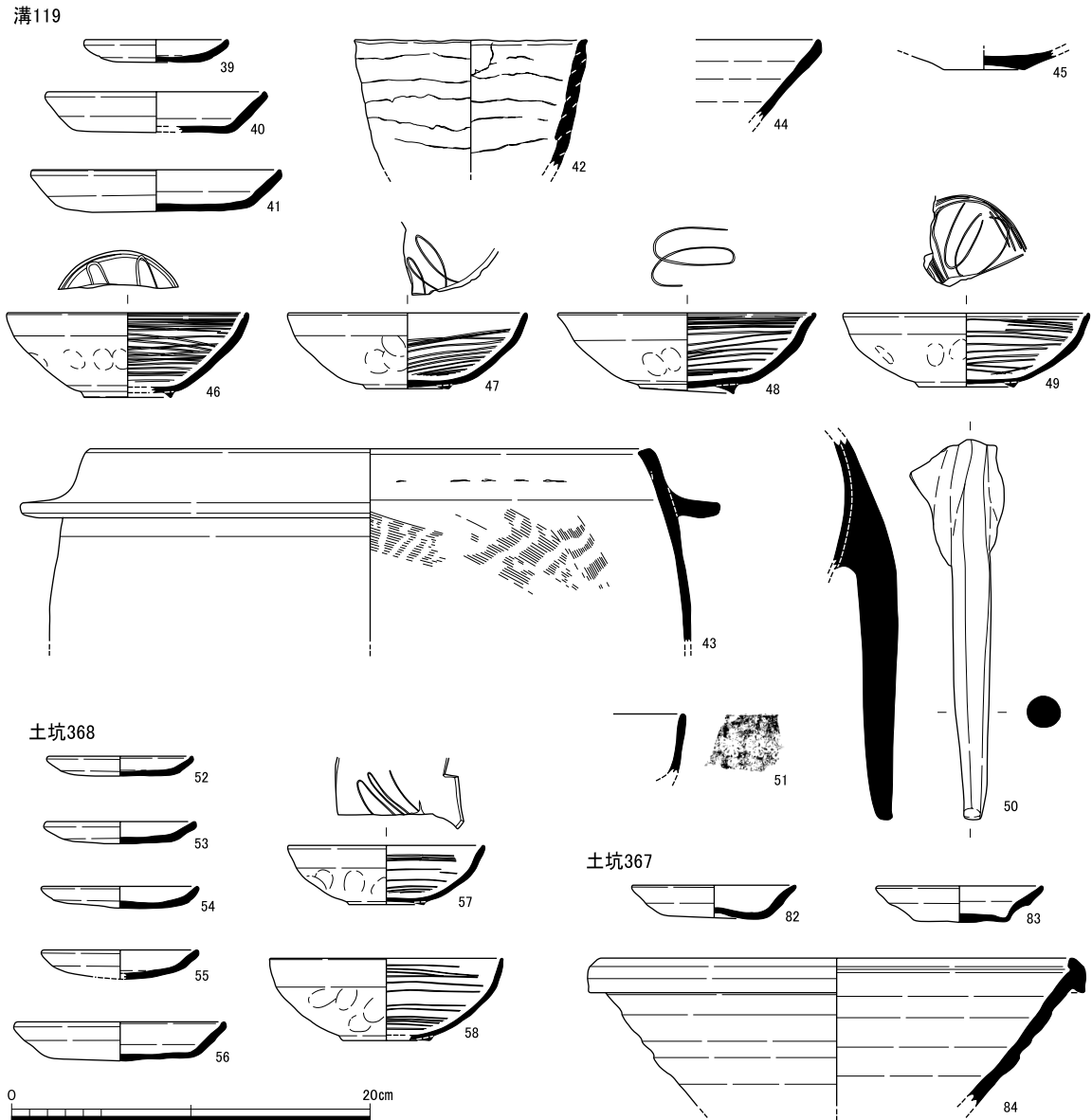


図28 鎌倉時代から室町時代土器実測図1（1：4）

はやや大型の皿である。

その他の遺構出土（27～38） 27～38は鎌倉時代の整地層に混入して出土した。27～35は土師器皿である。27～33は口径9.6～11.6cm、いわゆる「て」の字状口縁の皿である。34は口径12.8cm。35はロクロ成形の皿で、底部外面はヘラ切り、調整していない。山陽地方産か。36～38は土師器台付皿である。11～12世紀代である。

鎌倉時代から室町時代（図28・29、図版8）

鎌倉時代から室町時代の遺物は、整地層や溝119、土坑368から土師器、瓦器、須恵器、輸入陶磁器、焼締陶器などが出土した。瓦器では椀・皿類のほかには鍋や羽釜が多数出土した。

溝119出土（39～51） 39は口径7.9cmの小型、40・41は口径12.0・13.8cmの大型の土師器皿である。42は土師器の深鉢、粘土紐接合痕が明瞭に残る。43は口径31.2cmの大型の土師器羽釜、鏝の接合部にユビオサエ痕が顕著に残る。44は東播系の須恵器鉢、45は輸入陶磁器白磁皿の底部である。46～49は瓦器椀、内面にヨコ方向のヘラミガキ、内面底部には螺旋状の暗文が施される。樟葉産である。50は瓦器三足羽釜の脚部である。51は上層から出土した瓦器香炉で、体部外面に花文が押捺される。39～50は13世紀代である。51は14世紀以降のものである。

土坑368出土（52～58） 52～55は口径8.0～8.6cm、56は口径11.6cmの土師器皿である。57・58は瓦器椀、樟葉産である。13世紀代である。

鎌倉時代整地層出土（59～81） 59～74は調査区中央南寄りで集中して出土した。59～62は口径8.4～9.4cmの土師器皿。63は東播系の須恵器甕、頸部から体部外面にかけて粗いタタキ痕が残る。64～74は瓦器である。64～66は皿、内面にジグザグ状の暗文が施される。67～69は椀、内面にヨコ方向のヘラミガキ、67・68は内面底部に暗文が施される。70・71は鍋、体部内面はハケメ調整、外面はユビナデ・オサエで成形、煤が付着する。72は羽釜、73・74は三足羽釜の脚部である。13世紀代である。

75は東播系の須恵器鉢。76・77は輸入陶磁器の白磁椀。78は輸入陶磁器の青磁皿、無高台で内面底部に櫛描文を施す。同安窯系である。79～81は瓦器である。79は鍋、80は羽釜、いずれも外面に煤が付着する。81は三足羽釜の脚部である。

土坑367出土（82～84） 82・83は口径9～9.2cmの土師器皿、84は東播系の須恵器鉢である。14世紀代である。

桃山時代から江戸時代（図30、図版9）

桃山時代から江戸時代の土器類には、土師器、陶磁器などがある。土師器皿には、伏見城下でこれまでに確認されている「X群土師器皿⁴⁾」とされるものが各遺構から出土している。これは、桃山時代から江戸時代前期の京都市街地中心部から出土する土師器皿とは異なる特徴をもった皿である。特徴としては胎土が精良で、黄色がかった色調である。焼成も良好で硬質である。また器壁がやや薄手で、口縁端部先端が尖り気味なものがある。

土坑206出土（85～89） 口径6.8cmの小皿、口径9.0・10.3cmの中皿、口径12.4cmの大皿の3群に分かれる。中・大皿の底部内面には圈線が巡らず、色調も浅黄色から灰白色である。89は口縁端

鎌倉時代整地層

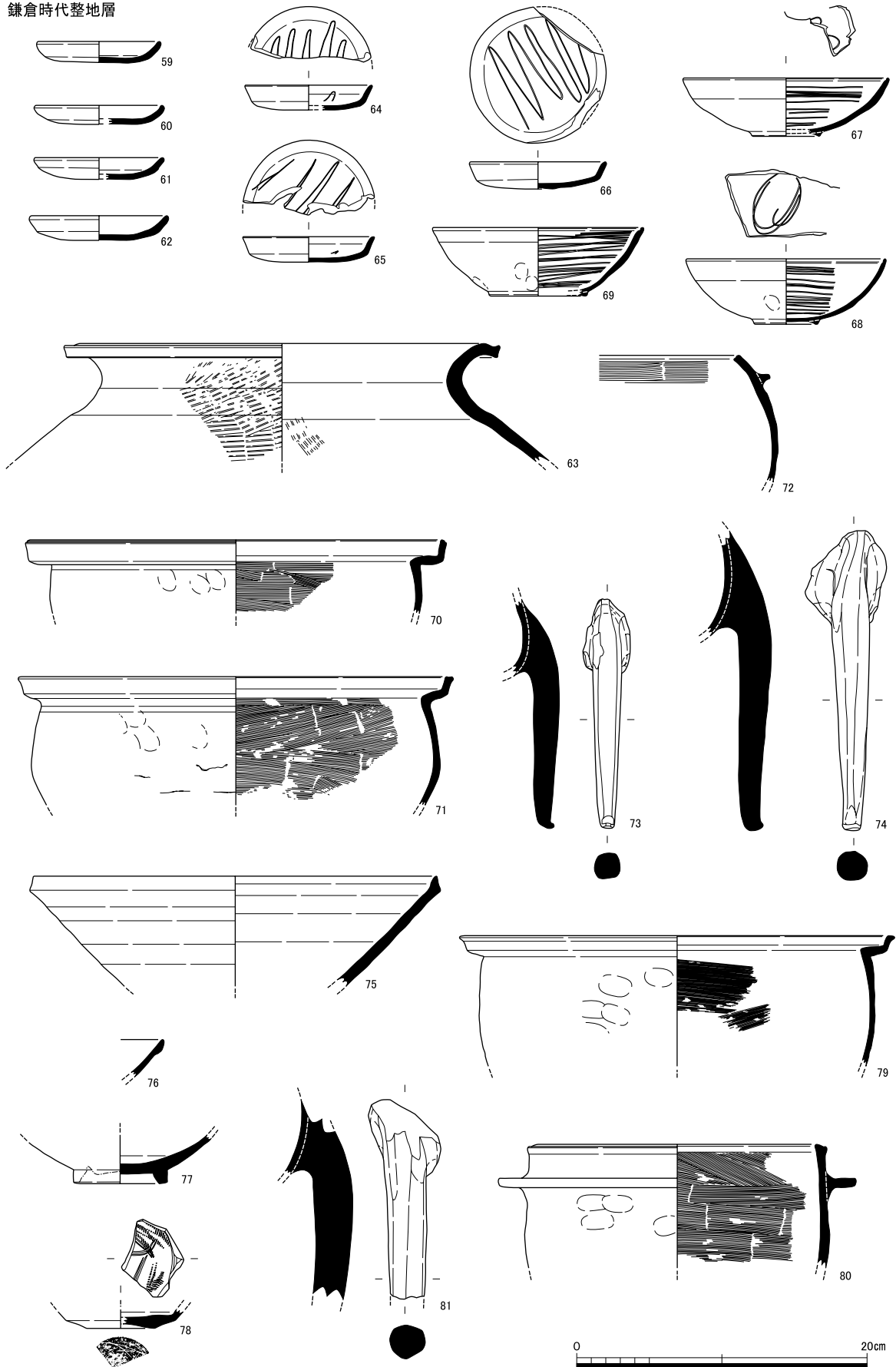


図29 鎌倉時代から室町時代土器実測図2 (1:4)

部に煤が付着し、灯明皿である。すべてX群土師器皿である。16世紀末から17世紀前期である。

土坑209出土（90～93） 90～92は口径7cm前後の小皿、色調は浅黄橙色である。口縁端部に煤が付着する。X群土師器皿である。93は施釉陶器の美濃天目椀である。16世紀末から17世紀前期である。

土坑353出土（94～97） 94は口径7.0cmの土師器小皿、95～97は口径9.1～10.2cmの土師器中皿、97は底部内面に圈線が巡る。この一群は器壁がやや厚めである。16世紀末から17世紀前期である。

土坑256出土（98） 口径11.1cmの中皿、色調は浅黄橙色で、硬質である。X群土師器皿である。

土坑295・306・307出土（99～105） 99・100は口径7.2cm・7.3cmの小皿、101～104は口径9.1～11.8cmの中皿、105は口径12.5cmである。104は底部内面に圈線が巡る。102～104は灯明皿である。103・104以外はX群土師器皿である。16世紀末から17世紀前期である。

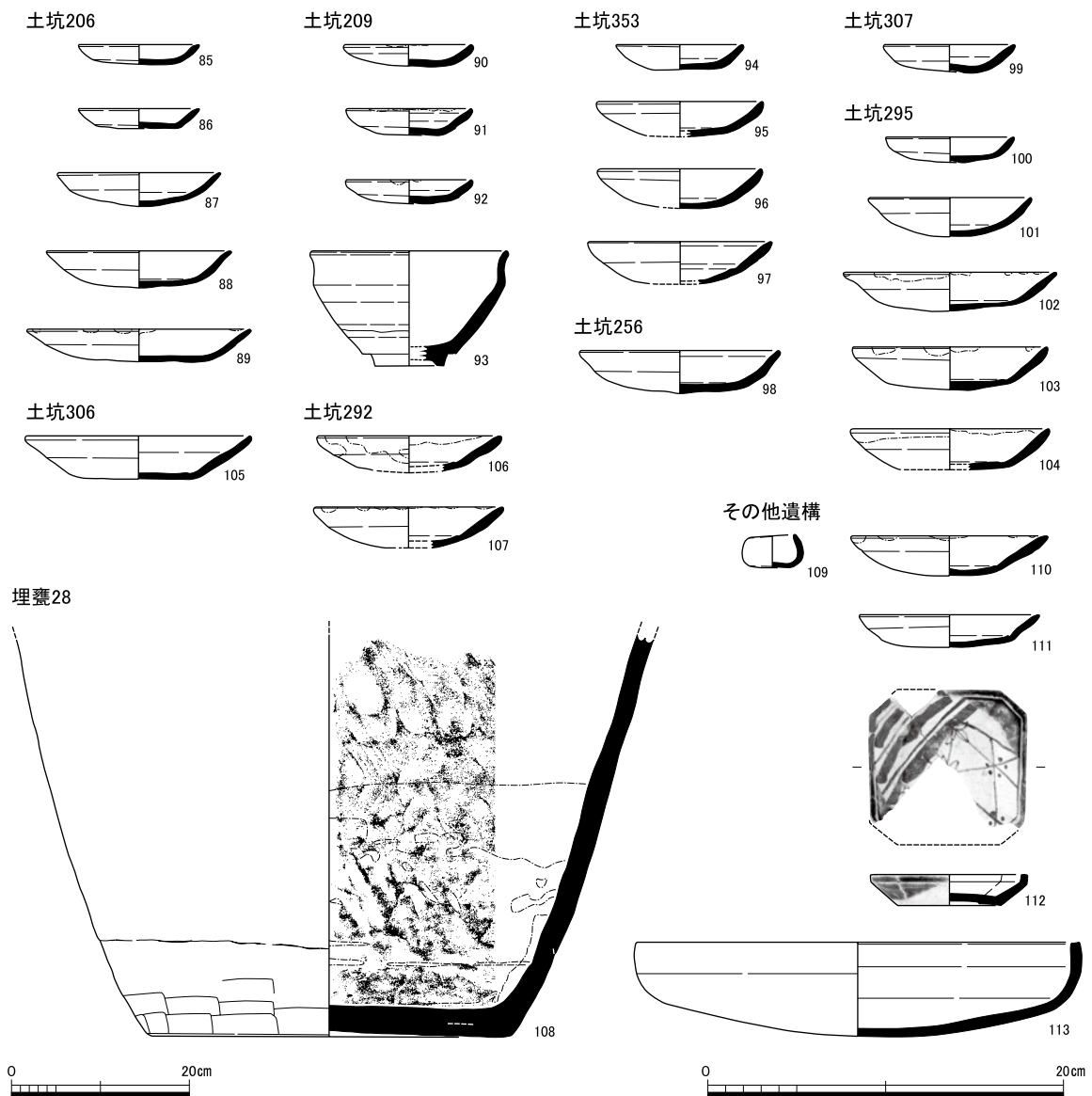


図30 桃山時代から江戸時代土器実測図（1：4、108のみ1：8）

土坑292出土（106・107） 口径10.2cm・10.5cmの土師器中皿で、底部内面に圈線が巡る。灯明皿である。16世紀末から17世紀前期である。

埋甕28出土（108） 備前産の焼締陶器甕の体部から底部である。底径41.0cm、体部径約70cm、残存高45.3cmである。底部外面はヘラケズリ、内面は滑らかで、楕円形の連続する当て具痕が顕著に残る。器壁が非常に厚い。内面の底面から約50cmの位置までに尿石が付着する。

その他の遺構出土（109～113） 109・110は土師器、109は灯明皿である。110は胎土は橙色で赤色粒子を含む。111は土師器小壺である。色調は白色系である。112は施釉陶器の再興織部の型皿である。内面底部に成形時の粗い布目が残る。内面は鉄釉と緑釉で描かれる。113は土師器焙烙、底部は型作りである。18世紀以降のものである。

（3） その他の遺物

石製品（図31、図版8・9）

石1・2は溝119の上層から出土した。石1は一石五輪塔である。材質は花崗岩製でやや黄褐色を呈する。一辺が11.0～11.6cmの方形柱状、残存高は44.4cmである。空輪の一部と地輪の下半を欠損する。地輪部は四角柱で、表面は平坦に加工する。各面に文字などの銘は刻まれていない。また、墨書なども確認できなかった。石2は硯である。材質は粘板岩製で、黒灰色を呈する。長さ10.8cm、幅6.6cm、厚さ1.3cm、海部側の周縁は欠損する。陸部側の周縁上面には波状の文様が線刻される。裏側端面に2箇所、断面三角形の工具痕がみられる。

石3は調査区西寄り中央の第2面遺構検出中に出土した。径2.05cmの円形に加工される。厚さは0.6cm、暗灰色を呈する。碁石とみられる。

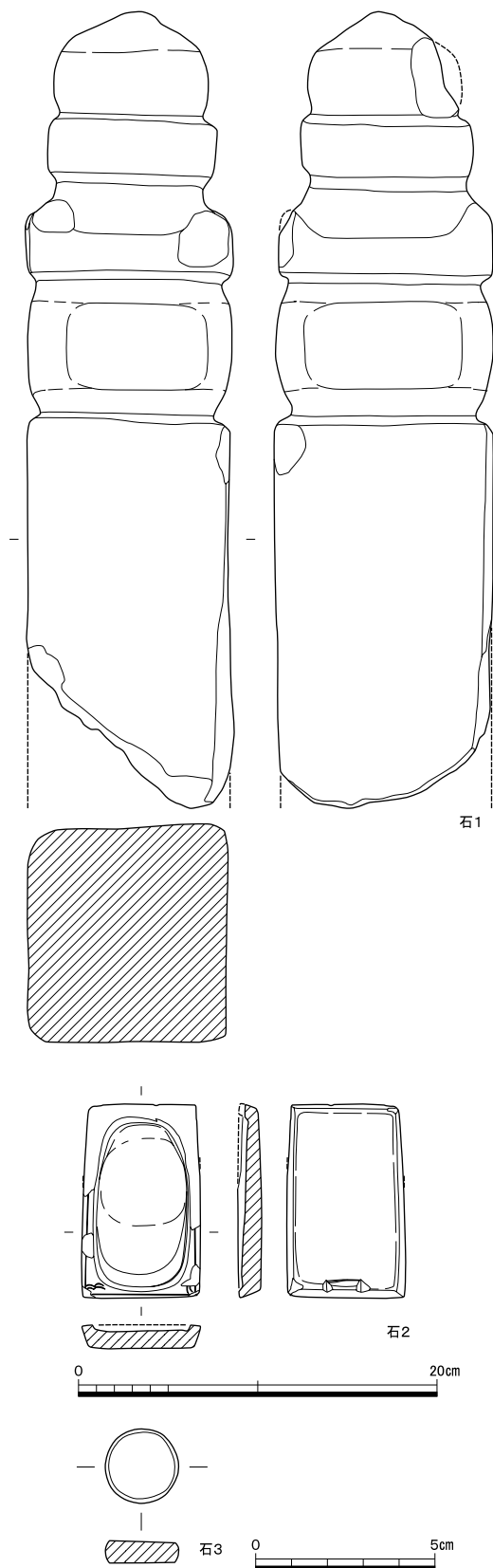


図31 石製品実測図（1：4、石3のみ1：2）

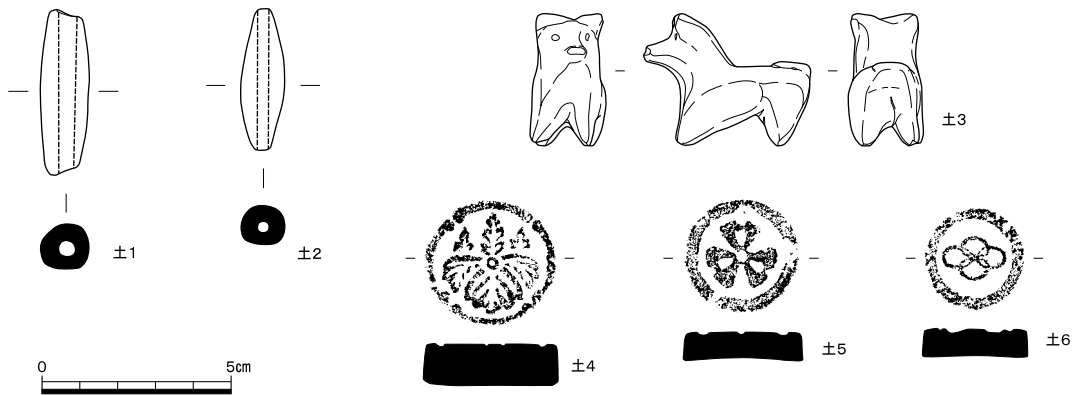


図32 土製品実測図（1：2）

土製品（図32、図版9）

土1・2は土製品の土錘である。土1は長さ4.4cm、最大径1.3cm、土坑351から出土した。土2は長さ3.75cm、最大径1.2cm、溝366から出土した。共に細い棒状の芯に粘土を巻き付けて成形したものである。土3は犬形土製品、他の遺跡でも桃山時代から江戸時代初期の遺構からの出土例がある。土4～6は泥面子である。土4は五三桐文、土5はかたばみ文、土6は四つ金輪文である。

瓦類（図33）

瓦1は菊丸瓦、瓦2・3は軒丸瓦、瓦4～6は軒平瓦、瓦7は軒棧瓦である。瓦1は16弁2重の菊文、瓦2・3は右巻き三巴文である。瓦4は側縁に引掛け部がつく。瓦8は直角三角形の埴である。鋭角部分は約45度である。瓦1・2は土坑209、瓦7は土坑203、それ以外は攪乱や遺構検出中に出土した。

鑄造関連（図版7）

土坑370からは不定形の鉄滓、窯壁が出土した。鉄滓の一部を蛍光X線分析した結果、鉄分を含む鉄滓であることが判明した。出土した鉄滓の総重量は1,015g、長径3～10cmの大きさのものが19個体出土した。それと共に窯壁が出土した。窯壁の総重量は370g、窯壁の外表面は赤く変色し、すさ状の痕跡がみえる。内面には鉄滓が付着する。

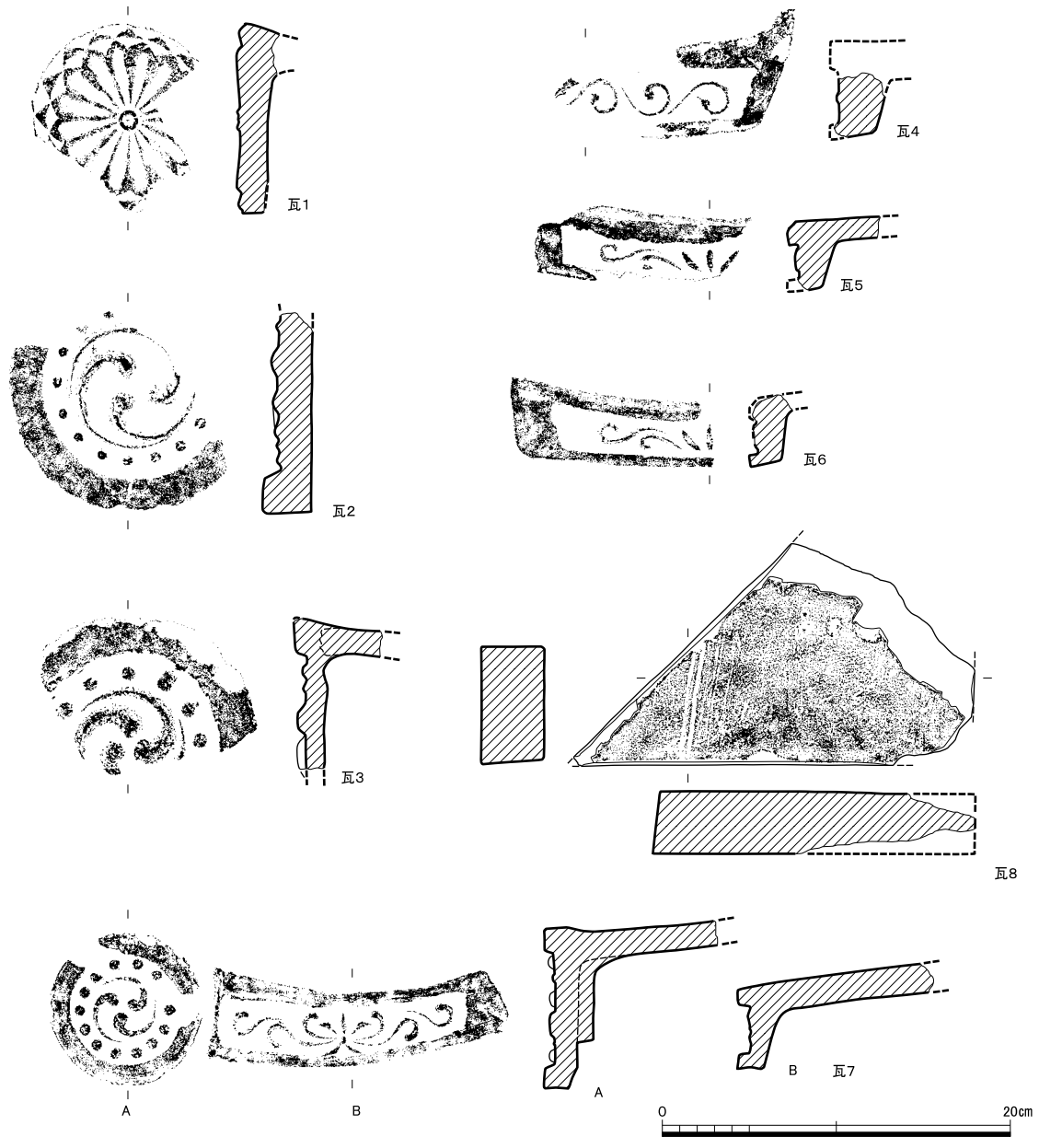


図33 瓦類拓影及び実測図 (1 : 4)

5. まとめ

今回の調査地は、桃山丘陵の南西裾部に位置し、南側の宇治川に向かって北東から南西方向に緩やかに傾斜する地形である。当地は桃山時代から江戸時代の伏見城跡にあたり、弥生時代から鎌倉時代の集落である桃陵遺跡に近接する。江戸時代を通しては鳥羽・伏見の戦いで焼失するまで、伏見奉行所の一面に位置する。周辺の調査からは、縄文時代後期から近代までの長期にわたる遺構を検出している。

桃陵遺跡に関する遺構としては、弥生時代中期の方形周溝墓、飛鳥時代から奈良時代の遺構、鎌倉時代から室町時代の遺構・整地層など、3時期にわたる遺構群を検出した。これにより当地における桃山時代以前の土地活用の状況が明らかになった。以下に、時期別に主な調査成果を記述する。なお、以下の調査番号は図7・表1の周辺調査成果による。

弥生時代 方形周溝墓は周溝の全容を確認できるものはなかったが、溝を共有しているとみられるものを含め5基程度になると考えられる。埋葬主体部は確認できていないが、溝379・426に囲まれた内側で検出した土坑383は、位置的にみて主体部になる可能性も考えられる。周辺地域では、調査地西70mで実施した調査8で、弥生時代中期の方形周溝墓を7基検出しており⁵⁾、今回の調査地の方形周溝墓が一連の墓域とすると、墓域の範囲は東西80m以上となる。北へ230m地点の調査6でも方形周溝墓を2基検出している⁶⁾。周囲からはこの時期の居住域はみつかっていないが、弥生時代中期を中心とした集落が調査地一帯に広がると思われる。

飛鳥時代から奈良時代 調査では飛鳥時代から奈良時代の竪穴建物や鑄造関連遺物を含む土坑を検出した。周辺の調査でもこの時期の遺構の検出がみられる。調査地から北へ約550mの地には、飛鳥時代から奈良時代の御香宮廃寺が位置する。これらの遺構は寺の造営やそれに関連する人々の居住地あるいは工房として利用されたと思われる。

鎌倉時代から室町時代 鎌倉時代には溝119の西側に厚く整地が行われている。溝119は地形の変換点となる丘陵の段差部分にあたり、東側は地山が高く残存し堤防状となる。そのため溝の西側には堤を築き、溝を制御し、西側は積極的に宅地や耕作地として土地利用したことがわかった。検出遺構は少量であるが、遺物は出土量が多く種類も多種多様である。

桃山時代から江戸時代 豊臣秀吉による伏見城期の大木屋敷などに関連する明確な遺構は検出できなかった。しかし、調査区全域で層厚0.3～0.95mの整地層を検出し、大規模な整地が行われたことが明らかとなった。これは伏見城城下町整備の一環と捉えられる。江戸時代前期以降の伏見奉行所の時期には、当地は「与力屋敷」、「同心屋敷」などの町屋が立ち並んでいたことが、江戸時代の絵図などから読み取れる。それらに関連する遺構として、トイレ遺構、貯蔵施設を伴う建物跡などを検出している。

近代 調査地は明治・大正時代の地図に工兵第十六大隊の練兵場の記述がある。調査では、幅約2mの大小の方形土坑を検出した。掘形は垂直に近く、埋土はほぼ単層である。これらは調査7で検出した堀状遺構と同様に塹壕掘りの教練の一環として掘られたものと思われる。

現在、本調査地は京都市による遺跡地図の桃稜遺跡の範囲からは若干はずれている。遺跡の範囲については本調査地を含め、各時期の集落が南西へ展開する様相を見せることから、さらに南へ拡大することが必要と思われる。

また、今回の調査においては、弥生時代の方形周溝墓の周溝を検出したが、住居跡は検出できなかった。今後、墓域の範囲の確認とともに居住域や生産域などの発見が望まれる。

註

- 1) 村尾政人ほか『伏見城跡・桃陵遺跡 公務員宿舎伏見住宅（仮称）整備事業 発掘調査報告書』西近畿文化財調査研究所 2010年
山田邦和「伏見城とその城下町の復元」『豊臣秀吉と京都』文理閣 2001年
- 2) 平尾政幸『伏見城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004 - 18 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2005年
山本雅和・大立目一ほか『伏見城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006 - 27 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2007年
- 3) 『古代の土器1 都城の土器集成』古代の土器研究会 1992年
- 4) 註2と同じ
- 5) 小森俊寛・原山充志「伏見城跡3」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 6) 村尾政人ほか『伏見城跡・桃陵遺跡 公務員宿舎伏見住宅（仮称）整備事業 発掘調査報告書』西近畿文化財調査研究所 2010年

付表1 土器類観察表

遺物No.	器種	器形	遺構・層名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	胎土・色調・焼成	備考
1	縄文土器	鉢	遺構検出中	最大径(22.5)	(15.4)	8.0	40	胎土密、長石・石英・チャート・雲母・角閃石・赤色粒子含む、7.5YR5/4にぶい褐色、焼成良	
2	弥生土器	壺	溝162	18.2	31.8	7.6	95	胎土密、石英・チャート・雲母・赤色粒子含む、7.5YR7/4にぶい橙色、焼成良	7本1単位の榑描文、穿孔2
3	弥生土器	壺	遺構検出中	18.7	(21.8)		20	胎土密、長石・石英・チャート・雲母・赤色粒子含む、2.5Y8/3浅黄色、焼成良	5本1単位の榑描文
4	弥生土器	甕	竪穴建物177・425		(3.5)	8.4	底部50	胎土密、長石・石英・チャート・雲母・赤色粒子含む、2.5Y8/2灰色、2.5Y5/1黄灰色、焼成良	
5	土師器	杯C	土坑427	13.6	4.9		90	胎土密、長石・チャート・赤色粒子含む、5YR7/6橙色、焼成良	
6	土師器	甕	土坑427	14.4	(15.0)		60	胎土密、長石・石英・チャート・赤色粒子含む、5YR6/6橙色、焼成良	
7	須恵器	杯H	土坑427	9.2	3.1	5.2	40	胎土密、長石・石英含む、(外面)2.5YR4/1赤灰色(内面)N5/0灰色、焼成良	
8	土師器	杯	竪穴建物177	17.9	4.1		20	胎土密、長石・チャート・雲母含む、5YR6/8橙色、焼成良	
9	土師器	甕	竪穴建物177	9.4	(7.2)		20	胎土密、長石・石英・チャート含む、7.5YR7/6橙色、焼成良	
10	土師器	杯	竪穴建物425	17.8	(4.7)		20	胎土密、長石・チャート・雲母・赤色粒子含む、5YR6/8橙色、焼成良	
11	土師器	甕	竪穴建物425	14.0	(7.0)		20	胎土密、長石・石英・チャート含む、10YR8/3浅黄橙色、焼成良	口縁部のみ
12	土師器	甕	竪穴建物425	24.1	(8.1)		25	胎土密、長石・石英・チャート・雲母・赤色粒子含む、10YR8/4浅黄橙色、焼成良	口縁部のみ
13	土師器	杯C	溝381	16.9	(4.4)		20	胎土密、長石・チャート・雲母・赤色粒子含む、5YR7/8橙色、焼成良	
14	土師器	杯C	溝381	16.9	(4.5)		20	胎土密、長石・チャート・雲母含む、5YR6/6橙色、焼成良	
15	土師器	長胴甕	溝381	23.3	(10.2)		10	胎土密、長石・石英・チャート・雲母・赤色粒子含む、5YR7/6橙色、焼成良	
16	土師器	甕	溝381	31.4	(7.8)		20	胎土密、長石・石英・チャート・雲母・赤色粒子含む、7.5YR7/6橙色、焼成良	
17	須恵器	高杯	溝381	24.6	(6.0)		80	胎土密、長石・石英・チャート含む、N7/0灰白色、焼成良	
18	須恵器	杯G	攪乱	10.4	3.5		25	胎土密、長石・石英・黒色粒子含む、N5/0灰色、焼成良	
19	須恵器	杯H	鎌倉時代整地層	9.6	3.0		20	胎土密、長石・石英・チャート・黒色粒子含む、N6/0灰色、焼成良	
20	須恵器	甕	鎌倉時代整地層		(10.3)		小片	胎土密、長石・石英含む、2.5Y6/1黄灰色、焼成良	頭部外面、刺突文と沈線
21	須恵器	甕	土坑370	14.8	(14.6)		10	胎土密、長石・石英・チャート含む、10YR7/2にぶい黄橙色、焼成良	
22	須恵器	壺	鎌倉時代整地層		(12.5)	11.8	25	胎土密、長石・石英・黒色粒子含む、5Y5/1灰色、焼成良	把手の痕跡有
23	土師器	皿	土坑372	10.0	1.2		30	胎土密、長石・石英・チャート・雲母・赤色粒子含む、7.5YR8/3浅黄橙色、焼成良	
24	土師器	皿	土坑372	10.8	2.0		80	胎土密、長石・石英・チャート・雲母・赤色粒子含む、7.5YR8/2灰白色、焼成良	
25	土師器	皿	土坑372	11.5	2.3		80	胎土密、長石・石英・チャート・雲母含む、7.5YR7/4にぶい橙色、焼成良	
26	土師器	皿	土坑372	14.7	2.7		80	胎土密、長石・石英・チャート・雲母・赤色粒子含む、7.5YR7/6橙色、焼成良	
27	土師器	皿	鎌倉時代整地層	9.6	1.4		90	胎土密、長石・チャート・雲母・赤色粒子含む、10YR8/3浅黄橙色、焼成良	
28	土師器	皿	鎌倉時代整地層	10.4	1.4		40	胎土密、長石・石英・チャート・雲母含む、10YR7/3にぶい黄橙色、焼成良	
29	土師器	皿	鎌倉時代整地層	10.7	1.7		40	胎土密、長石・チャート・雲母・赤色粒子含む、5YR7/6橙色、焼成良	

※()は残存数値

遺物 No.	器種	器形	遺構・層名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	胎土・色調・焼成	備考
30	土師器	皿	鎌倉時代 整地層	10.8	1.4		60	胎土密、長石・石英・チャート・雲母含む、 10YR8/3浅黄橙色、焼成良	
31	土師器	皿	鎌倉時代 整地層	7.6	1.5		40	胎土密、チャート・雲母・赤色粒子含む、 10YR8/3浅黄橙色、焼成良	
32	土師器	皿	鎌倉時代 整地層	8.1	1.4		40	胎土密、チャート・雲母含む、10YR8/3浅黄橙色、 焼成良	
33	土師器	皿	鎌倉時代 整地層	11.6	1.8		25	胎土密、長石・チャート・雲母・赤色粒子含む、 7.5YR7/6橙色、焼成良	
34	土師器	皿	鎌倉時代 整地層	12.8	1.9		40	胎土密、長石・チャート・雲母含む、 7.5YR7/4にぶい橙色、焼成良	
35	土師器	皿	鎌倉時代 整地層	8.6	1.5	6.0	40	胎土密、長石・石英・チャート・赤色粒子含む、 7.5YR7/4にぶい橙色、焼成良	底部ヘラ切り、 山陽地方産
36	土師器	台付皿	鎌倉時代 整地層		(4.2)	10.9	脚部20	胎土密、長石・石英・チャート・雲母含む、 10YR8/2灰白色、焼成良	
37	土師器	台付皿	鎌倉時代 整地層		(3.5)		脚部20	胎土密、長石・石英・チャート・雲母含む、 10YR8/4浅黄橙色、焼成良	
38	土師器	台付皿	鎌倉時代 整地層		(3.4)		脚部20	胎土密、長石・チャート・雲母・赤色粒子含む、 5YR7/8橙色、焼成良	
39	土師器	皿	溝119	7.9	1.3		100	胎土密、長石・チャート・雲母・赤色粒子含む、 10YR8/3浅黄橙色、焼成良	
40	土師器	皿	溝119	12.0	2.3		35	胎土密、長石・石英・チャート・雲母含む、 10YR7/2にぶい黄橙色、焼成良	
41	土師器	皿	溝119	13.8	2.4		40	胎土密、長石・チャート・雲母・赤色粒子含む、 10YR7/3にぶい黄橙色、焼成良	
42	土師器	鉢	溝119	12.9	(7.4)		20	胎土密、長石・石英・チャート・雲母・赤色粒子 含む、10YR7/3にぶい黄橙色、焼成良	製塩土器か
43	瓦器	羽釜	溝119	31.2	(10.8)	最大径 39	50	胎土密、長石・石英・チャート・赤色粒子含む、 7.5YR6/4にぶい橙色、焼成良	
44	須恵器	鉢	溝119		(4.5)			胎土密、長石・チャート含む、N5/0灰色、焼成良	東播系
45	輸入白磁	皿	溝119		(1.1)	4.4		胎土密、微粒子含む、(胎土)N8/0灰白色 (釉)2.5GY7/1明オリーブ灰色、焼成良	底部外面は無釉
46	瓦器	椀	溝119	13.4	4.8	4.75	35	胎土密、長石含む、N3/0暗灰色、焼成良	樟葉産
47	瓦器	椀	溝119	13.3	4.3	6.7	25	胎土密、長石・石英・黒色粒子含む、N4/0灰色、 焼成良	樟葉産
48	瓦器	椀	溝119	14.2	4.5	5.2	60	胎土密、長石・石英・チャート・黒色粒子含む、 N4/0灰色、焼成良	内面に重ね焼の 痕跡 樟葉産
49	瓦器	椀	溝119	13.7	4.1	4.1	40	胎土密、チャート含む、N3/0暗灰色、焼成良	樟葉産
50	瓦器	羽釜	溝119		(21.3)			胎土密、長石・石英・チャート含む、 N3/0暗灰色、焼成良	脚部のみ
51	瓦器	香炉	溝119		(3.3)			胎土密、長石含む、N2/0黒色、焼成良	外面に花文
52	土師器	皿	土坑368	8.0	1.1		50	胎土密、長石・チャート含む、10YR7/4にぶい黄 橙色、焼成良	
53	土師器	皿	土坑368	8.2	1.2		90	胎土密、長石・石英・チャート・雲母含む、 10YR7/4にぶい黄橙色、焼成良	
54	土師器	皿	土坑368	8.6	1.2		100	胎土密、長石・チャート・雲母含む、10YR7/4に ぶい黄橙色、焼成良	
55	土師器	皿	土坑368	8.6	1.6		80	胎土密、長石・石英・チャート・雲母・赤色粒子 含む、7.5YR7/6橙色、焼成良	
56	土師器	皿	土坑368	11.6	2.2		90	胎土密、長石・チャート・雲母・赤色粒子含む、 10YR7/4にぶい黄橙色、焼成良	
57	瓦器	椀	土坑368	10.8	3.3	4.2	30	胎土密、長石・雲母含む、N4/0灰色、焼成良	樟葉産
58	瓦器	椀	土坑368	12.8	4.6	4.8	30	胎土密、長石・雲母含む、N5/0灰色、焼成良	樟葉産

※()は残存数値

遺物No.	器種	器形	遺構・層名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率(%)	胎土・色調・焼成	備考
59	土師器	皿	鎌倉時代整地層	8.4	1.5		60	胎土密、長石・石英・雲母・赤色粒子含む、7.5YR8/4浅黄橙色、焼成良	
60	土師器	皿	鎌倉時代整地層	8.7	1.3		40	胎土密、長石・石英・雲母・赤色粒子含む、7.5YR7/4にぶい橙色、焼成良	
61	土師器	皿	鎌倉時代整地層	8.8	1.5		50	胎土密、長石・石英・雲母含む、7.5YR8/4浅黄橙色、焼成良	
62	土師器	皿	鎌倉時代整地層	9.4	1.7		30	胎土密、長石・石英・雲母含む、10YR8/2灰白色、焼成良	
63	須恵器	甕	鎌倉時代整地層	27.6	(8.1)		10	胎土密、長石・石英・チャート含む、N3/0暗灰色、焼成やや不良	東播系
64	瓦器	皿	鎌倉時代整地層	8.7	1.7		25	胎土密、長石・石英・黒色粒子含む、N3/0暗灰色、焼成良	
65	瓦器	皿	鎌倉時代整地層	9.0	1.8		50	胎土密、長石・石英・黒色粒子含む、N3/0暗灰色、焼成良	
66	瓦器	皿	鎌倉時代整地層	9.4	1.9		80	胎土密、長石・チャート含む、N4/0灰色、焼成良	粘土板結合成形か、樟葉産
67	瓦器	椀	鎌倉時代整地層	14.0	4.0	4.6	20	胎土密、長石・チャート含む、N4/0灰色、焼成良	樟葉産
68	瓦器	椀	鎌倉時代整地層	13.6	4.5	4.2	10	胎土密、長石含む、N5/0灰色、焼成良	樟葉産
69	瓦器	椀	鎌倉時代整地層	14.5	4.7	6.6	40	胎土密、長石・チャート含む、N3/0暗灰色、焼成良	樟葉産
70	瓦器	鍋	鎌倉時代整地層	28.3	(5.1)		10	胎土密、長石・石英・黒色粒子含む、N5/0灰色、焼成良	外面煤付着
71	瓦器	鍋	鎌倉時代整地層	29.8	(8.9)		20	胎土密、長石・石英・雲母・黒色粒子含む、N3/0暗灰色～N8/0灰白色、焼成良	外面煤付着
72	瓦器	羽釜	鎌倉時代整地層		(8.7)		10	胎土密、長石・チャート含む、N5/0灰色、焼成良	
73	瓦器	羽釜	鎌倉時代整地層		(15.8)			胎土密、長石・石英・雲母含む、N3/0暗灰色、焼成良	脚部のみ
74	瓦器	羽釜	鎌倉時代整地層		(20.7)			胎土密、長石・石英・黒色粒子含む、N3/0暗灰色、焼成良	脚部のみ
75	須恵器	鉢	鎌倉時代整地層	27.8	(7.6)		10	胎土密、長石・石英・黒色粒子含む、N6/0灰色、焼成良	東播系
76	輸入白磁	椀	鎌倉時代整地層		(2.6)		10	胎土密、(胎土)2.5Y8/2灰白色(釉)2.5Y7/2灰黄色、焼成良	
77	輸入白磁	椀	鎌倉時代整地層		(3.4)	6.4	底部100	胎土密、長石含む、(胎土)5Y8/1灰白色(釉)5Y7/2灰白色、焼成良	
78	輸入青磁	皿	鎌倉時代整地層		(1.3)	4.6	25	胎土密、(胎土)N7/0灰白色(釉)5Y6/3オリーブ黄色、焼成良	
79	瓦器	鍋	鎌倉時代整地層	29.2	(9.0)		10	胎土密、長石・石英・チャート・雲母含む、(外面)N4/0灰色、(内面)2.5Y7/2灰黄色、焼成良	外面煤付着
80	瓦器	羽釜	鎌倉時代整地層	19.2	(8.5)		10	胎土密、長石・石英・チャート・雲母含む、(外面)N4/0灰色、(内面)2.5Y8/2灰白色、焼成良	外面煤付着
81	瓦器	羽釜	鎌倉時代整地層	(13.8)				胎土密、長石・石英・チャート・雲母含む、(外面)N4/0灰色、(内面)5Y8/1灰白色、焼成良	脚部のみ
82	土師器	皿	土坑367	9.1	1.9		100	胎土密、長石・石英・雲母・赤色粒子含む、10YR8/3浅黄橙色、焼成良	
83	土師器	皿	土坑367	9.2	2.1		100	胎土密、長石・石英・チャート・雲母含む、7.5YR8/3浅黄橙色、焼成良	
84	須恵器	鉢	土坑367	26.2	(8.3)		10	胎土密、長石・石英・黒色粒子、8mm礫含む、7.5Y6/1灰色、焼成良	東播系
85	土師器	皿	土坑206	6.8	1.1		100	胎土密、長石・石英・チャート・赤色粒子含む、2.5Y8/3淡黄色、焼成良	
86	土師器	皿	土坑206	6.8	1.1		100	胎土密、長石・雲母・赤色粒子含む、10YR8/3浅黄橙色、焼成良	
87	土師器	皿	土坑206	9.0	1.9		50	胎土密、長石・石英・チャート・雲母・赤色粒子含む、10YR8/3浅黄橙色、焼成やや不良	

※()は残存数値

遺物 No.	器種	器形	遺構・層名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	胎土・色調・焼成	備考
88	土師器	皿	土坑206	10.3	2.1		40	胎土密、長石・石英・チャート・赤色粒子含む、10YR8/2灰白色、焼成良	
89	土師器	皿	土坑206	12.4	1.9		25	胎土密、チャート含む、10YR8/3浅黄橙色、焼成良	灯明皿
90	土師器	皿	土坑209	7.1	1.3		50	胎土密、石英・雲母・赤色粒子含む、10YR8/3浅黄橙色、焼成良	灯明皿
91	土師器	皿	土坑209	7.0	1.5		90	胎土密、石英・雲母含む、7.5YR8/4浅黄橙色、焼成良	灯明皿
92	土師器	皿	土坑209	7.0	1.4		100	胎土密、長石・石英・雲母・赤色粒子含む、7.5YR7/4にぶい橙色、焼成良	灯明皿
93	施釉陶器 美濃	天目碗	土坑209	11.2	6.5	3.9	25	胎土密(胎土)7.5Y8/1灰白色(釉)5YR3/4暗赤褐色、焼成良	
94	土師器	皿	土坑353	7.0	1.5		100	胎土密、長石・石英・雲母含む、7.5YR7/4にぶい橙色、焼成良	
95	土師器	皿	土坑353	9.3	(2.0)		30	胎土密、長石・石英・雲母・赤色粒子含む、7.5YR8/4浅黄橙色、焼成良	
96	土師器	皿	土坑353	9.1	2.2		80	胎土密、長石・石英・雲母・赤色粒子含む、7.5YR8/4浅黄橙色、焼成良	
97	土師器	皿	土坑353	10.2	2.4		80	胎土密、長石・チャート・雲母・赤色粒子含む、10YR7/4にぶい黄橙色、焼成良	
98	土師器	皿	土坑256	11.1	2.4		65	胎土密、長石・石英・雲母・赤色粒子含む、10YR8/3浅黄橙色、焼成良	
99	土師器	皿	土坑307	7.3	1.6		100	胎土密、石英含む、10YR8/3浅黄橙色、焼成良	
100	土師器	皿	土坑295	7.2	1.5		80	胎土密、石英含む、10YR7/3にぶい黄橙色、焼成良	
101	土師器	皿	土坑295	9.1	2.2		25	胎土密、石英・雲母・赤色粒子含む、7.5YR7/4にぶい橙色、焼成良	
102	土師器	皿	土坑295	11.8	2.2		90	胎土密、長石・石英・チャート含む、7.5YR8/6浅黄橙色、焼成良	灯明皿
103	土師器	皿	土坑295	10.9	2.5		60	胎土密、長石・石英・チャート・赤色粒子含む、7.5YR7/4にぶい橙色、焼成やや不良	灯明皿
104	土師器	皿	土坑295	11.2	(2.3)		40	胎土密、長石・石英・赤色粒子含む、5YR7/6橙色、焼成やや不良	灯明皿
105	土師器	皿	土坑306	12.5	2.5		60	胎土密、長石・石英・チャート含む、7.5YR8/3浅黄橙色、焼成良	内面の重ね焼き痕
106	土師器	皿	土坑292	10.2	(2.0)		20	胎土密、長石・チャート・雲母含む、7.5YR7/4にぶい橙色、焼成良	
107	土師器	皿	土坑292	10.5	(2.3)		60	胎土密、長石・赤色粒含む、7.5YR8/3浅黄橙色、焼成良	灯明皿
108	焼締陶器 備前	甕	埋甕28		(45.3)	41.0	60	胎土密、長石・石英・チャート含む、5YR5/4にぶい赤褐色、焼成良	内面に尿石付着
109	土師器	小型壺	攪乱	2.4	1.9		100	胎土密、長石・石英・雲母含む、2.5Y8/1灰白色、焼成良	つぼつぼ
110	土師器	皿	土坑21	11.0	2.2		80	胎土密、長石・石英・チャート含む、7.5YR7/4にぶい橙色、焼成やや不良	灯明皿
111	土師器	皿	土坑27	10.1	1.8		99	胎土密、長石・石英・チャート・赤色粒子含む、7.5YR6/6橙色、焼成良	
112	施釉陶器 織部	皿	攪乱	8.2	1.8	5.8	60	胎土やや粗い、(胎土)5Y8/1灰白色(釉)2.5Y8/2灰白色、焼成良	18世紀以降、再興織部
113	土師器	焙烙	攪乱	24.8	5.3		50	胎土密、長石・石英・雲母・赤色粒子含む、2.5YR6/6橙色、焼成良	

※()は残存数値

付表2 その他の遺物観察表

遺物No.	種類		遺構・層名	法量(cm)	残存率(%)	胎土・色調・焼成	備考
石1	石製品	五輪塔	溝119	幅11.6、高さ(44.4)、 厚さ12.2	90	花崗岩	一石五輪塔、 無文
石2	石製品	硯	溝119	口径(10.8)、幅6.6、厚さ1.3	90	粘板岩	線刻文様あり
石3	石製品	碁石	遺構検出中	径2.05、厚さ0.6	100	N3/0暗灰色	
土1	土製品	土鍾	土坑351	最大径1.3、長さ4.4	100	胎土密、長石・石英・チャート含む、 2.5YR5/6明赤褐色～N3/0暗灰色、焼成良	
土2	土製品	土鍾	溝366	最大径1.2、長さ3.8	100	胎土密、長石・石英・雲母・赤色粒子含む、 7.5YR7/4にぶい橙色、焼成良	
土3	土製品	犬	遺構検出中	幅2.0、高さ3.5、奥行4.4	100	胎土密、長石・石英・雲母含む、 10YR8/2灰白色、焼成良	手捏ね
土4	土製品	泥面子	遺構検出中	径3.6、高さ1.1	100	胎土密、長石・石英・チャート・赤色粒子含む、 7.5YR7/3にぶい橙色、焼成良	五三桐文
土5	土製品	泥面子	土坑88	径3.1、高さ0.8	100	胎土密、長石・石英・チャート・赤色粒子含む、 7.5YR8/4浅黄橙色、焼成良	かたばみ文
土6	土製品	泥面子	攪乱	径3.9、高さ0.8	100	胎土密、長石・石英・赤色粒含む、 7.5YR8/3浅黄橙色、焼成良	四つ金輪文
瓦1	菊丸瓦	16弁2重 菊文	土坑209			胎土密、長石・石英・チャート・雲母含む、 7.5YR7/1灰白色、焼成良	
瓦2	軒丸瓦	右巻き 巴文	土坑209			胎土やや密、砂礫多く混、長石・石英・チャート・ 雲母含む、5Y7/1灰白色、焼成良	
瓦3	軒丸瓦	右巻き 巴文	攪乱			胎土密、長石・石英・チャート・雲母含む、 10YR7/3にぶい黄橙色、焼成良	
瓦4	軒平瓦	唐草文	写真清掃中			胎土やや密、長石・石英・チャート・雲母含む、 N7/0灰白色、焼成良	
瓦5	軒平瓦	唐草文	遺構検出中			胎土密、長石・石英・チャート含む、 10YR6/2灰黄褐、焼成良	
瓦6	軒平瓦	唐草文	攪乱			胎土密、長石・石英・チャート・雲母含む、 2.5Y7/1灰白色、焼成良	
瓦7	軒棧瓦	巴文、 唐草文	土坑203			胎土密、長石・石英・チャート・雲母含む、 N8/0灰白色、焼成良	
瓦8	塼		遺構検出中			胎土密、長石・石英・チャート含む、 2.5Y8/1灰白色、焼成良	直角三角形

※()は残存数値

圖 版



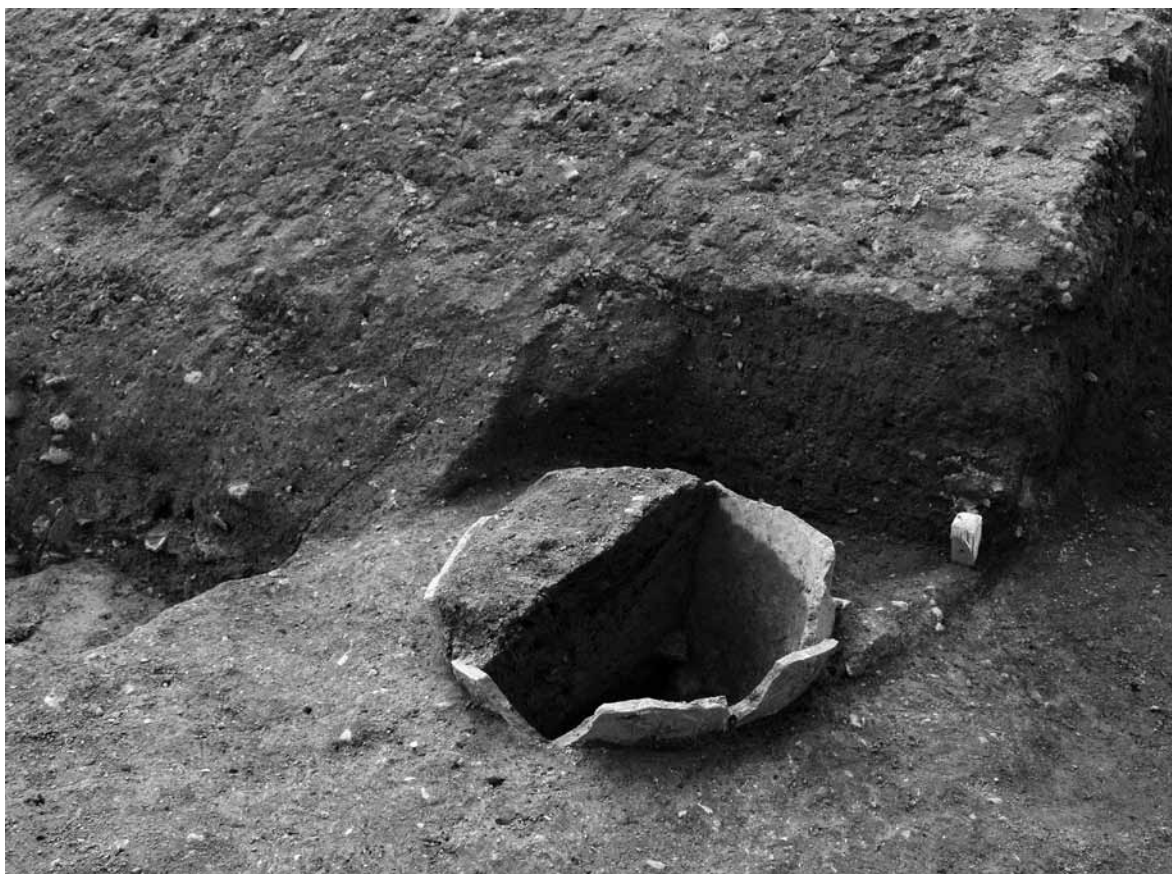
1 第1面東半全景（西から）



2 第1面西半全景（西から）



1 建物1・土坑256（北から）



2 埋甕28検出状況（北東から）



1 第2面東半全景（西から）



2 第2面西半全景（西から）



1 溝119 (北から)



2 溝119五輪塔出土状況 (西から)



3 建物2 (北から)



1 第3面東半全景（北から）



2 第3面西半全景（西から）



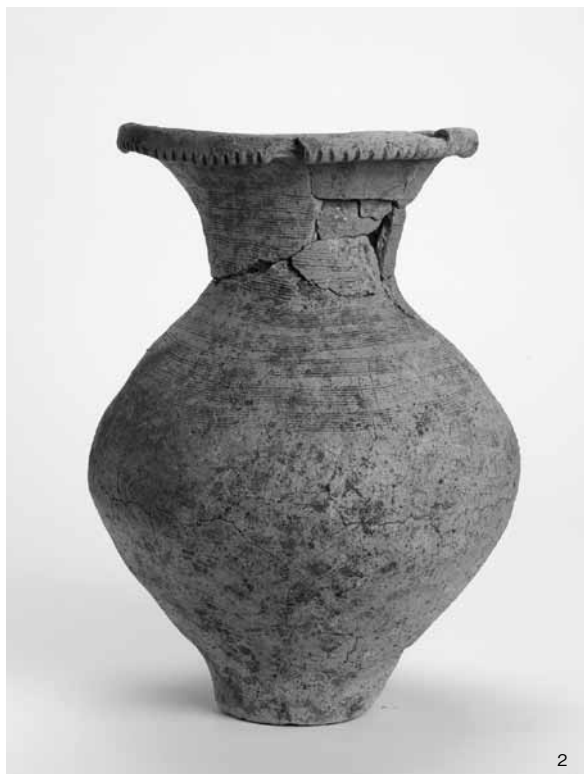
1 竪穴建物177・425（北東から）



2 土坑427土器出土状況（東から）



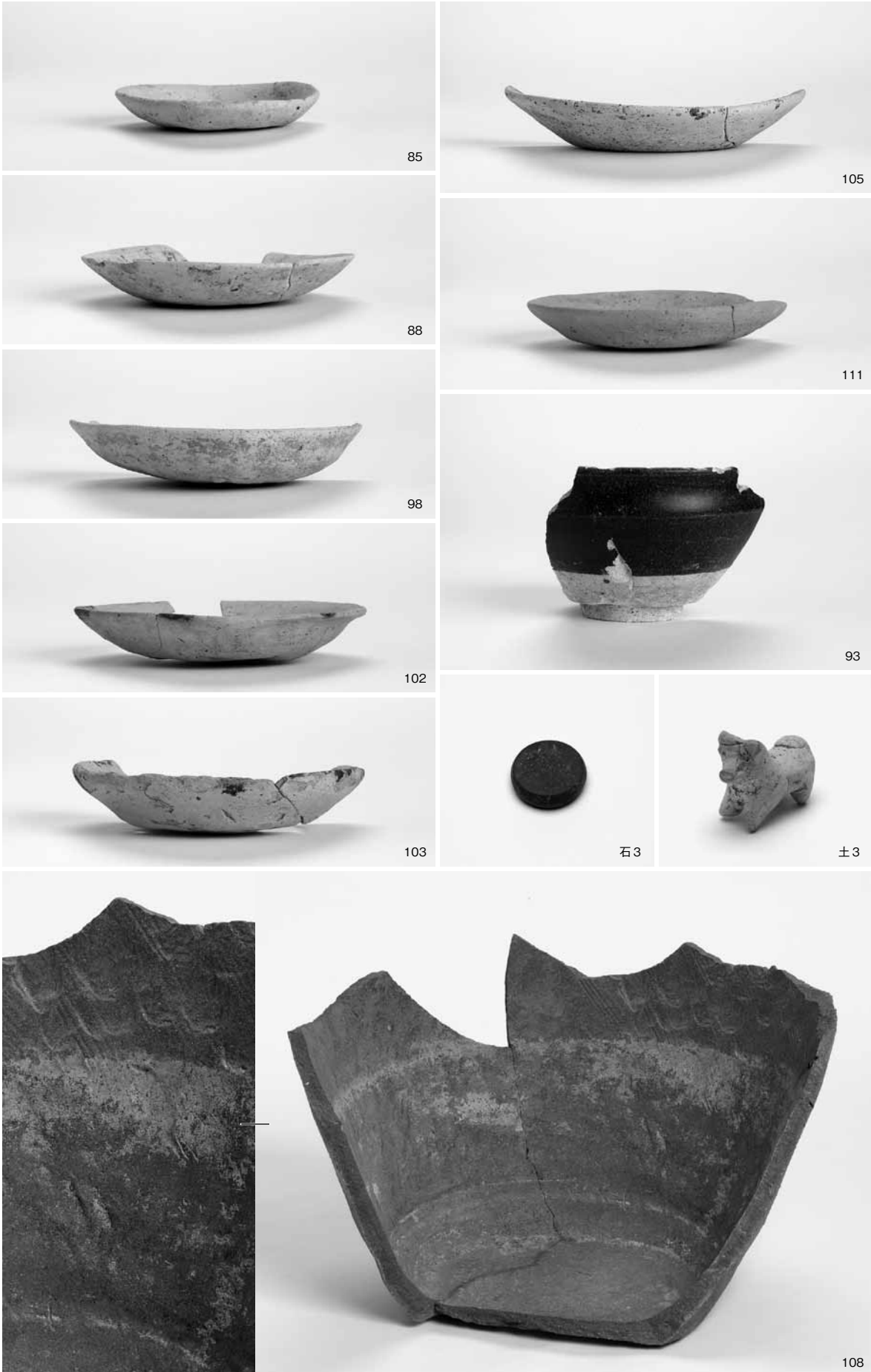
3 溝162弥生土器出土状況（南から）



縄文時代から奈良時代の遺物



鎌倉時代から室町時代の遺物



桃山時代から江戸時代の遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	ふしみじょうあと・とうりょういせき							
書名	伏見城跡・桃陵遺跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2015-2							
編著者名	近藤章子・松吉祐希・中谷正和							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2015年9月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふしみじょうあと 伏見城跡 とうりょういせき 桃陵遺跡	きょうとしふしみく 京都市伏見区 とうりょうちやう 桃陵町 1番地の1	26100	1172 1181	34度 55分 41秒	135度 45分 59秒	2015年2月 14日～2015 年6月12日	537㎡	中学校 複合施設 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
伏見城跡	平城跡	縄文時代		縄文土器	弥生時代の方形周溝墓を検出した。古墳時代から飛鳥時代の竪穴建物2棟を重複して検出した。調査区全域で中世の整地層、伏見城下町の整備に伴う整地層を検出した。			
桃陵遺跡	集落跡	弥生時代	溝	弥生土器				
		飛鳥時代 ～奈良時代	竪穴建物、土坑、溝、小穴	土師器、須恵器、鋳造関連遺物				
		平安時代	土坑	土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦				
		鎌倉時代 ～室町時代	流路、堤、掘立柱建物、土坑、柱穴、小穴、溝、整地層	土師器、須恵器、瓦器、輸入陶磁器、焼締陶器、石製品、土製品、瓦				
		桃山時代 ～江戸時代	掘立柱建物、土坑、柱穴、小穴、溝、井戸、整地層	土師器、施釉陶器、染付磁器、焼締陶器、石製品、土製品、瓦				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2015-2

伏見城跡・桃陵遺跡

発行日 2015年9月30日

編集
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961